

會 報

第 17 号



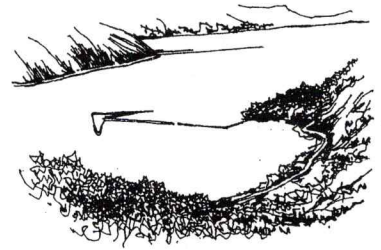
滋賀県レイカディア大学同窓会



レイカディア大学校歌
レイカディア讃歌

一、近江の最中 青き湖

ささなみ寄せる軽き音
いつまでも尽きることなき
その思い ともに学ばん
さわやかに レイカディア
レイカディア
わがレイカディア



二、青垣つらね鈴鹿比良
峰にたわむる白鳥の

いつまでも果つることなき
歓びを ともに遊ばん
うるわしく レイカディア
レイカディア
わがレイカディア

三、淡海映す蒼き空

宇宙が見せる深き貌
いつまでも消ゆることなき
その真実 ともに生きなん
かぎりなく レイカディア
レイカディア
わがレイカディア

高城 修三 作詞
下村 正勝 作曲
廣瀬 量平 補作

さわやかに
mf

1. おおみのもならかあおきうみ
2. あおかのきつらねあすずかきひら
3. あわかうみうつすあおおきそら

ささなみよせろーきおとの
みねわたがみむせらしかの
うちゆうがみせらふかときお

1.~3. いつまでも つきることなき そのおもいととも
はつることなき そよろこびをととも
きゆることなき そのまこ ととも

にまなばん さわるーやかしく
にまいきばん かうるーわしなく
にまいきばん かんぎーりなく

1.~3. レイ
カディアレイカディアわがレイカディア

目 次

同窓会憲章	1
同窓会報「第十七号」の発刊に寄せて	滋賀県レイカディア大学
会報「第十七号」の発刊に寄せて	学長 稲葉 稔 2
	滋賀県レイカディア大学
	同窓会会長 佐々木尚一 3
平成十一年度の定期総会について	事務局長 奥村常治郎 4
グランドゴルフ大会の実施について	総務部長 西川 甲三 5
成果展から	研修部長 磯貝 澄雄 6
総会のアトラクション主宰者として	守山・野洲副支部長 辻本 昇 7
平成十一年度本部役員及び各部構成員名簿	9
各支部活動状況の報告	9
大津支部活動報告	副支部長 井上 弘 10
湖南支部だより	支部長 奥村常治郎 11
守山・野洲支部活動の活性化について	支部長 岩井 典弘 12
甲賀支部の活動	支部長 今井 博 14
近江八幡支部の活動状況について	支部長 西川 甲三 15
中部支部活動だより	支部長 武久 四郎 17
湖東支部からの報告	支部長 磯貝 澄雄 18
会報発行を例として
湖北支部活動の一端	支部長 林 憲雄 20
高島支部の活動	支部長 川島 義一 22

随 筆

これでよいのか原発
洛北を訪ねて	大津支部	五期生文芸学科 山本 良雄
近時雑感(さいきん こんなことを おもっています)	大津支部	九期生文芸学科 福谷 かよ
一病息災で古稀を迎える (随想)	大津支部	十一期生文芸学科 門馬 三郎
同窓会活動に参加して	大津支部	十五期生園芸学科 小林 郁郎
俳句でつづる『天平の里』	大津支部	十九期生園芸学科 和田 守立
素人さんの天気予察	湖南支部	十六期生生活学科 杉村 嘉子
謡曲を始めて	湖南支部	十七期生園芸学科 花田 賢司
「私の夢」マッシュルームの家庭園芸的栽培	湖南支部	十七期生文芸学科 宇野 愛子
忘れてはならないこと	湖南支部	十七期生生活学科 吉倉 定一
詩作とボケ防止	守山・野洲支部	九期生陶芸学科 中村 勝一
「中国湖南の旅友好使節団」体験と交流の旅に参加して	守山・野洲支部	十期生園芸学科 竹林 治平
垂水頓宮跡と土山本陣をたずねて	守山・野洲支部	十九期生スプロク学科 山内 三代子
梓を外す	甲賀支部	十七期生文芸学科 谷北嘉一郎
最後の挑戦	甲賀支部	十八期生文芸学科 鈴木 重隆
	甲賀支部	十八期生園芸学科 奥村 喬

二水会	甲賀支部	十九期生文芸学科	黄瀬 毅一	41
コンピュータと私				
戦争体験者としてこれだけは語っておきたい	近江八幡支部	八期生文芸学科	牧田 登茂	42
歴史考(古代史の探究)	近江八幡支部	十期生生活学科	富田 政尾	43
健康に生きる	近江八幡支部	十一期生園芸学科	佐々木尚一	44
一日一日を大切に	近江八幡支部	十五期生文芸学科	岩崎 進	46
老犬の思い出	中部支部	十四期生園芸学科	岡本 幹雄	47
雑感	中部支部	十五期生生活学科	山本 慶子	48
生まれた時は何も知らない	中部支部	十八期生園芸学科	藤野 重昭	48
ねんりんピックに参加して	湖東支部	十一期生園芸学科	西堀 嘉一	50
「ひまわり会」ボランティアに参加して	湖東支部	十六期生スポレク学科	横山 芳子	50
雑感(卒業後の短信)	湖東支部	十九期生生活学科	藤居 和子	51
運を天にまかせて	湖東支部	二十期生文芸学科	安澤 慶治	52
サロン講座を受講して	湖北支部	十一期生園芸学科	田辺 一	53
ささやかな私のボランティア活動	湖北支部	十三期生スポレク学科	中川志げ子	54
	高島支部	十四期生スポレク学科	志連紀恵子	55

老いのひとり言

高島支部	十六期生文芸学科	上野エミ子	56	
「国重要文化財」若宮神社の大改修に寄せて	高島支部	十八期生文芸学科	伊香 善一	57
二十期生(新入会員)代表				
園芸学科の今後の取り組みについて	草津校	甲賀支部 園芸学科	芦田 秀明	59
「若さ」きらめく	草津校	湖南支部 陶芸学科	三上 善弘	60
心通じる仲間との出会い	草津校	中部支部 生活学科	斎藤吉太郎	61
レイカディア大学を卒えて	草津校	守山・野洲支部 文芸学科	園 昭男	62
大学二年間の学生生活の思い出	草津校	湖南支部 スポレク学科	原 邦夫	64
園芸学科に学んで	米原校	湖東支部 園芸学科	田中 昭一	65
生活科学科に学んだ思い出―二十一世紀への期待―	米原校	湖北支部 生活学科	西脇 義雄	66
走馬灯	米原校	中部支部 文芸学科	薄田 善次	67
真実からの喜び	米原校	湖北支部 スポレク学科	橋本 高明	68
物故者を悼む				
同窓会会則・表彰規定				
編集後記				

滋賀県レイカディア大学同窓会憲章

- 一、互いに助け合い、高齢者社会を生きる資質と実践力を高めよう。
- 一、心身の健康を保って、社会活動に積極的に参加し、高齢社会の支柱となって働こう。
- 一、古き良きものを伝承し、新しきを生み出して、郷土社会の健全な発展に尽くそう。
- 一、会員の研修及び母校の発展に寄与する活動を積極的、持続的に推進しよう。
- 一、社会の発展に即応する高齢者像の具現のために励みあい、提携し合う輪を内外に広めよう。

平成六年七月十一日制定

滋賀県レイカディア大学同窓会

同窓会報「第十七号」の発刊に寄せて

滋賀県レイカディア大学

学 長 稲 葉 稔

(財団法人滋賀県レイカディア振興財団 理事長)



滋賀県レイカディア大学同窓会会報の発刊にあたりまして、一言ご挨拶申し上げます。

同窓会の皆様方には、平素より、滋賀県レイカディア振興財団の事業の推進につきまして、格別のご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、わが国では、人口の高齢化が諸外国に例を見ない速さで進展し、まさに人生八十年時代を迎えております。高齢社会においては、これまでの人生で培ってきた様々な経験、知識、技能を活かして高齢期を豊かに過ごすことが望まれているものの、多くの高齢者がその過ごし方を模索しているというのが現状ではないでしょうか。

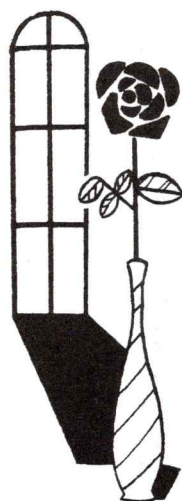
こうしたなかで、年齢にとらわれることなく、地域とのかかわりを持ち続けながら、生きがいを持って、健康で明るく過ごすことができる社会を構築していくことが極めて重要になっております。

同窓会の皆様方には、こうした時代にふさわしい積極的な生き方を創り出していただくとともに、それぞれの立場

で、地域においてご活躍されることを願うものであります。また、「レイカディア大学同窓会」におかれましても、地域活動の幅広いネットワークを築いていただき、滋賀県が目指します「生きいきと明るい長寿社会」を実現するため、その中心的な役割を担っていただけるものと期待いたしております。

私も滋賀県レイカディア振興財団も、微力ながら、高齢者の方々の生きがいづくり、健康づくり、そして社会参加のお手伝いをしてまいります。どうか今後とも、ご協力、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、同窓会の今後のますますのご発展と会員の皆様方のご健勝、ご活躍を祈念いたしまして、発刊によせてのご挨拶とさせていただきます。



会報「第十七号」の発刊に寄せて

滋賀県レイカディア大学

同窓会会長 佐々木 尚

同窓会会員の皆様にはその後お変わりもなく益々ご壮健にて地域活動にご活躍のこと何よりとお喜びを申し上げます。

就任二年目を迎えまして、幸いにも役員始め会員の皆様の温かいご鞭撻とご支援を頂きまして、誠心誠意その重責にお応えしております事を大変嬉しく思います。

本年度の事業運営に就いても、財団並びに大学当局との協力関係の緊密化に一層努めると共に、役員の役割分担の強化によって、お陰様にて諸事順調に推移する事が出来まして、心から喜んでおります。

ご案内の通りに、昨年度は本大学の開校二十周年の記念すべき年に恵まれて、同窓会としても意義ある顕彰事業の一環として、大学の校旗を調整し贈呈する事にしました。この後本校の栄光の象徴として主要行事に掲揚されており、益々の発展を祈念して末永く活用されん事を願っております。

さて、本年度の総会は湖北方面の皆様のご要望にお応えして米原の文化会館にて開催致しまして、旧来の懇親会形式に変えて、各支部競演によるアトラクションで演技が披

露され、参会者の大きな声援に熱演が続き盛況裡に終了出来ました。

改めて、関係各位の皆様方のご支援に心から敬意を表します。

今年度も本会の主要事業として、本部会報第十七号が刊行される事になり、毎号会員の皆様の本誌を通じて、情報交換と自己研鑽の課題提起に賛同される熱意に感動申し上げ、続刊が重ねられる事に感謝致しております。

今度二十期生の皆様の卒業を心から祝福申し上げますと共に、本会に新進気鋭の新しい仲間を迎えて、皆様と地域社会に貢献する事を欣快としております。

いよいよ人生八十年時代、二十一世紀を迎えて、豊かで明るく健やかな長寿社会を目指して残された余生を、会員相互の親睦を大切にして、地域社会の福祉活動に健闘され併せて同窓会活動に奮ってご参加されん事を願っております。

終りに、本会の益々の発展と会員皆様のご健勝とご活躍をお祈り申し上げ、発刊に寄せてご挨拶とさせていただきます。

平成十一年度の定期総会について

事務局長 奥村 常治郎

本年度の定期総会は、次の点で従来とは異なる新しい試みのもとで六月九日、県立文化産業交流会館（米原校）で開催されました。

一、議案書を総会に先がけ約一、八〇〇名の全会員に事前配布したこと。

二、出席人員を制限することなく希望者全員出席できるようにしたこと。

三、開催地を例年の湖南地域から、湖北地域に変更したと。

四、恒例の総会後の懇親会に変え、アトラクションとして日頃地域でボランティア活動に頑張っている会員さんの演芸を披露する発表会にしたこと。

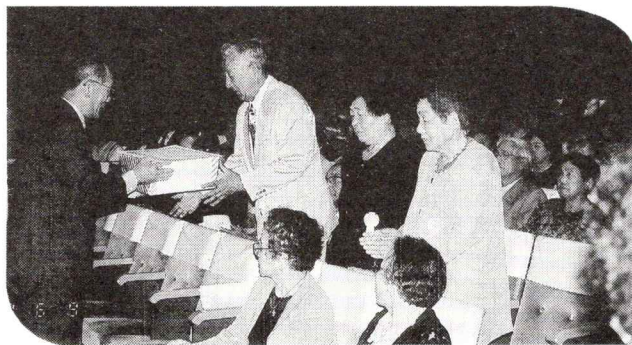
五、新規事業計画として支部対抗グランドゴルフ大会の開催を提案したこと。

会場は、予定の座席を上回る二四二名といううれしい悲鳴の出席者で、急きよ補助椅子を準備するなど当番支部の湖東のみなさんには大変ご苦労いただきましたが、定刻に開催され、稲葉稔学長（前知事）をはじめ足田県老人クラブ連合会長およびレイカディア大学関係者など多数のご

出席、ご挨拶をいただきました。

総会は議案書の事前配布で、あらかじめ提案事項に目を通されていたこともあってかスムーズに進行し、無事盛會裡に終了することができました。

（注 総会アトラクションについては、本文七頁に記載）



壇上から下り、功労賞を各受賞者に手渡しする佐々木会長

グラウンドゴルフ大会の実施について

総務部長 西川 甲三

当初、実施を予定していましたが九月末日が台風十八号のために延期となりまして皆様に大変御迷惑をお掛けしました。グラウンドの都合もあってやっと十月十三日に実施する運びとなりました。

当日、八時十分に近江八幡市の運動公園に着くと、もう何組かの支部が練習していました。その支部の人と立話をする。「このコースは他に較べて上級であると聞いたのであるために早く来た」とのことであり、このプレーに対する意気込みが窺われました。

会長挨拶の後、九時四十分より試合を開始しました。十ハホールのグラウンドゴルフ場に九チーム（一チームは六人編成）が一斉にプレーをしているのを見ると壮観であり、また各選手が支部の名誉にかけて真剣に取り組んでいる態度には感激致しました。

プレーしている知人の話では「このコースはむつかしくて、思うようにトマリにならないのでいららして精神衛生上よくない」とのことでしたが、それでも成績を見ると一位と二位のチームは共に四百二十七点で、一人当たりの平均点はパー（七十二点）以下であって腕前の良さを知ら

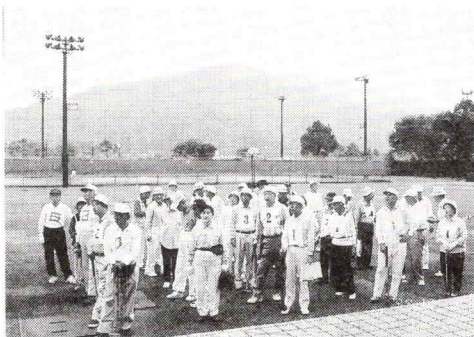
されると共に日頃の練習の成果があらわれていました。各チームの成績は別表の通りですがいずれも見事な成績でした。

澄みきった青空のもと琵琶湖の涼風を一パイ受けて和気藹々の内に無事終了し、初期の目的としていました親善試合の効用はあったものと思っております。皆様の御協力有り難う御座いました。

成績表

順位	支部名	得点
優勝	湖東支部	四七
準優勝	湖北支部	四七
3等	大津支部	四六
敢闘勝	守山、野洲支部	四三
5等	近江八幡支部	四三
6等	甲賀支部	四三
7等	湖南支部	四六
8等	中部支部	五七
9等	高島支部	五三

(注) 湖東と湖北支部は同じ得点でしたが、最少得点の人がいる湖東支部を優勝としました。



成果展から

研修部長 磯貝 澄雄

去る十月三十、三十一の両日、県立長寿社会福祉センターを会場にして行われた「レイカディア・フェスティバル」の一環として、本会の成果展を同会場で開催しましたことはご案内の通りであります。両日とも好天に恵まれて、成果展会場への入場者は両日で約八〇〇名を数え、大変盛会でした。用意した出陳目録を何回も追加印刷して間に合わせたとような状況でした。

ところで、出品された会員は一四九名、作品数では一六七点と、ともに年々増加していますし、内容においても、陶芸・書・各種絵画・手芸・工芸・写真その他大変バラエティに富み、いずれ劣らぬ立派な作品ばかりで、観る人の驚きと感嘆の聲が会場のあちこちから聞こえてきました。

さて、同窓の皆さんは、夫々の地域において、大学で二年前に習得された基礎的学習に、長年の体験と技術を加えて創作活動に励んで居られると思います。そこで皆さんの相互研鑽の場を設けて、お互いの作品を鑑賞することによって創作活動の継続、向上発展と社会的交流を促し、更には広く県民の皆さんに、レイカディア大学の存在と、その内容を理解していただくという趣旨から、この成果展が始まったのではないかと思います。そして今回は通算十六回

目を迎えたのであります。従って少なくとも平成七年の十二回までは、大学と本会との共同主催の形で行われ、在校生と卒業生が選択学科等の学習成果を一般に公開するというところで実施されて来ました。ところが今回のようにねんりんピックびわこレイカディア県民大会という大イベントの中の一コーナーとして成果展を行うことになったのは平成八年から今回で四回目になります。

以前のような方法で成果展を行えば、草津と米原の二校舎が存在するので出品する人も鑑賞する人も近くで催されるので極めて容易に参加出来るし、その趣旨にも最も合致すると思います。本会もだんだん会員数も増え、支部組織も確立された現在、成果展の在り方についても再検討すべき時期に来ているように思います。

搬入、搬出の問題や、鑑賞者の確保、作品の種類など、色々の問題点も多いように思いますので、今後の課題として、理事会あたりで検討していただいたらいらと思っております。



総会のアトラクション主宰者として

守山・野洲副支部長 辻本 昇

本年度の総会後の催事は、例年の懇親会形式に変えて、アトラクションとして、各支部競演による演技を披露されることになりました。私がそのアトラクションの責任者として主宰することになりました。

事務局と各支部長に依頼し（演出各支部十分間）募集の結果「十三組二十一名」の御賛同をいただき、バラエティーにとんだプログラムを作成する事が出来ました。



レ大本部総会

♡とき 平成11年6月9日(木)
♡ところ 米原文化産業交流会館

アトラクションプログラム

開 演 換 幕				辻 本 昇				人数
出演地	種 目	タ イ ト ル	出 演 者	支 部 名	卒 業 期	学 科		
1	民 謡	関上大漁節	辻本 昇	守山・野洲	13	陶 芸	1	
2	手 品		福原 範彦	湖 東	11	陶 芸	1	
3	手作り 紙芝居	狂言くづし 「真打三州村」	中村 勝一 関 武 野瀬 昭三	守山・野洲 大津 藤井 早苗	9 15 #	陶 芸 文 芸 #	4	
4	踊り	津 幸 幸	橋 まつ及	甲 賀	19	スポレク	1	
5	手 品		桑原 俊雄 栗庭 健治 熊谷 正三	高 島 # #	14 10 9	文 芸 # #	3	
6	民 謡	米 節	辻本 吉野	守山・野洲	15	生活科学	1	
7	踊り	鳥 の 娘	中川志子	湖 北	13	スポレク	1	
8	手 品		西村 啓雄	中 部	19	文 芸	1	
9	民 謡	磯 原 節	桑原 文子	高 島	14	生活科学	1	
10	踊り	琵琶湖周航の歌	宮下 恵美	中 部	16	スポレク	1	
11	寸 劇	石 寛 丸	伊藤 博成 他2名	湖 北	12	文 芸	3	
12	踊り	いのちくれない	坂上 八重	甲 賀	13	陶 芸	1	
13	手 品		伊吹 精郎	湖 南	16	陶 芸	1	
14	総踊り	江 州 音 頭	天野みき枝	湖 北	12	文 芸	2	
ファイナル 全員輪になって踊って～踊って～踊って若返りましよう							計21	

シナリオも自分なりに作成、開演挨拶から一時間四十分に渡る総合司会を難無くクリアする事が出来ました。

これ一重に事務局を始め支部長並びに出演者各位の御支援御協力の賜物と改めて厚く御礼申し上げます。

アトラクションには「遊び」の要素が必要で、たのしくなければアトラクションではありません。遊びを通した「楽習」の体験を如何に組み込むかが私なりのプログラム作成のポイントでした。

会員参加でアイデアを反映させ、その運営にどの様に参画していただくアトラクションにするかが重要な視点でもありました。

会員手づくりのアトラクションこそ素晴らしい楽習発表であり、アトラクションを通して生涯楽習の啓発や、楽習への意欲づけを図り、県レイ大同窓会員の意識を高める事に意義があり、今回初めてのアトラクションとして上出来と、多数の方から賞賛を頂きました。

でも課題もありました。例えば総会終了時間が半時間余遅れた為、十六時半終了の予定が半時間余超過、最後の「江州音頭」が段上と会場の皆さんと踊って踊って踊って「盛り挙げつつ」のところ幕となり至極残念・一抹の淋しさを感じました。

最後に当日の皆様方の御声援誠に有り難うございました。



平成11年度本部役員及び各部構成員名簿

役職	氏名	電話番号	所属支部	生年月	卒年	学科
会長	佐々木 尚一		近江八幡	大 7. 2	11	園芸
副会長	門馬 三郎		大津・支部長	大 10. 5	11	文芸
会計	谷本 一夫		大津・副支部長	昭 4. 2	15	園芸
事務局長	奥村常治郎		湖南・支部長	昭 8. 6	17	文芸
総務部 (6名)	部長 西川 甲三		近江八幡・支部長	大 14. 2	12	陶芸
	武久 四郎		中部・支部長	大 10.12	11	園芸
	辻本 昇		守山・野洲	昭 3. 9	13	陶芸
	小倉 清子		甲賀	昭 2. 5	16	スポ
	沢井 民子		湖南	昭 4. 5	12	生活
	桑原文子		高島	昭 14. 8	14	生活
広報部 (7名)	部長 岩井 典弘		守山・野洲・支部長	昭 3. 6	17	園芸
	関 武		大津	昭 4. 6	15	文芸
	岩崎 進		近江八幡	昭 2. 1	15	文芸
	林 茂男		甲賀	大 15. 4	11	園芸
	松本 芳雄		湖北	大 15. 9	14	園芸
	野玉 一子		湖東	昭 4. 8	12	生活
	高橋賀英子		中部	昭 4. 1	16	文芸
研修部 (6名)	部長 磯貝 澄雄		湖東・支部長	大 15. 2	11	園芸
	今井 博		甲賀・支部長	大 13. 4	11	園芸
	川島 義一		高島・支部長	大 13.12	14	園芸
	蘭 昭三		中部	昭 3. 3	18	園芸
	青山しづ子		湖北	昭 2.11	14	生活
	中川志げ子		大津	大 13. 1	13	スポ
調査部 (5名)	部長 林 憲雄		湖北・支部長	大 8. 5	11	文芸
	大西純一郎		湖南	大 12. 4	17	陶芸
	伊藤 宏		高島	昭 5. 8	19	園芸
	枝村 和次		湖東	大 8.11	12	園芸
	加藤 敏枝		守山・野洲	大 15.12	17	生活
婦人部	部長 馬場 利		近江八幡	昭 2. 4	15	スポ
役職	氏名		所属支部	生年月	卒年	学科
監事	谷口 一雄		高島	大 15. 8	15	園芸
	山本 弘一		高島	大 13.11	17	園芸
幹事	富田 博文	健康生きがい課長	本田 光	草津校事務局		
	西村 哲英	米原校事務局	森 安孝	子 草津校事務局		
	千田 みゆき	米原校事務局				

各支部活動状況の報告

大津支部活動報告

副支部長 井上 弘

一、組織強化と事業計画

門馬三郎支部長のもと、一般の執行部体制強化のため、副支部長四名とブロックの理事、幹事による事業の分担組織を組み、平成十一年度事業計画実施の担当役員を決定。遂次実施に移して支部同窓会活動が活気のあるグループとなって活動でき、同窓会の発展に繋がればと願っています。

二、平成十一年度 事業計画

① 研修旅行 福井県美浜 美浜原子力発電所

十月二十五日 観光バスにて

② グランドゴルフ 草津帰帆島公園 年二回

第一回 七月二十八日 優勝 Aブロック

第二回 十一月十七日

③ 会報の発行 年三回

創刊号 七月五日 配布済

第二号 十二月中旬

第三号 明年三月中旬

④ 本部事業推進

滋賀県レイカディア大学同窓会本部総会 六月九日

県立文化産業交流会館 大津支部 二十九名参加

平成十一年度同窓会成果展 十月三十、三十一日

県立長寿社会福祉センター二階

⑤ 大津支部役員会

第一回 五月十七日 第二回 七月五日

第三回 十二月中旬 第四回 明年二月中旬

なおこの間、事業担当副支部長は適宜理事、幹事と会合し齟齬のない連繋のうえ支部長を補佐し、諸施策の周知を徹底する。

三、第十五回大津支部総会

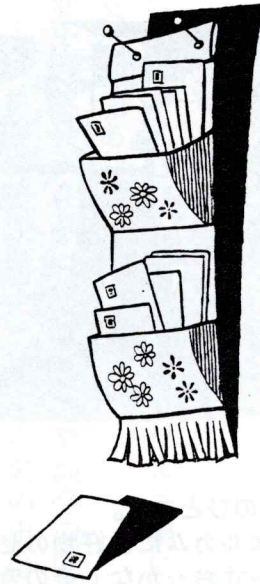
平成十一年四月九日開催、アヤハレイクサイドホテル

出席同窓会員 一〇五名

当日は小雨が降り出足が悪かったが定刻には、本部より佐々木会長の御出席を得て、御祝辞を戴き高齢者の交流の重要性を一段と強く感じながら、保井議長のもと建設的な意見、要望が発表され、後日役員会の宿題として総括し、終了後懇親会となり各々のグループで歓談し、再会を約束して無事閉会となりました。

四、あとがき

介護保険の要介護認定の申請受付が始まりました。来年四月一日からの介護保険制度不備な点ばかりが指摘されていますが、私達同窓会員一同の関心事であり、積極的に制度の内容を知り、もって地域活動に参画し、同窓会活動の活性に繋がればと思います。



湖南支部だより

支部長 奥村常治郎

わが湖南支部は、会員一四七名と全支部の平均会員数約二〇〇名に比べこじんまりとまとまった支部と自負しています。ままとりの主役は、昨年度より発行している『かわら版』の役割は見逃せないものと思っています。

支部活動のお知らせは勿論のこと実施結果の報告などをタイムリーに流していることもあって、皆さんからはプランに対するフォローもきちっと出来ていて活動の内容が良くわかると好評を得ています。

しかし、迅速な情報発信はその分、理事さんへのご足労を抜きにしてはどうてい行えないことを思うと心苦しいものがあります。

その軽減策の一環として、今年は、理事の担当地区を会員の居住地の「小学区」別に編成替えし、同時に理事を三名増員しました。

会員とのネットワークの整備、情報伝達の迅速化など一石三鳥をねらった一寸欲張りな変革を試みました。

支部総会に先がけ全会員に総会議案書を事前に配布したこともあって、後述の議事はスムーズに運び、待望の懇親会ではプロ顔負けの民謡や手品などのアトラクションで大いに盛り上がりました。

平成十一年度の事業

(活動事業項目)

(実施時期)

総会

四月十八日

四十二名出席

グランドゴルフ

五月二十九日

支部対抗の予選

歴史探訪ツアー

七月十三日

奈良大和路

新入会員歓迎懇談会

十月十二日

十四名出席

グランドゴルフ 十月十三日

片山津温泉一泊旅行 十一月十四日・十五日

作品展 二月二十四日～二十九日

これら事業の実行に当たっては、全理事を各事業ごとに担当を決め、その具体案を理事会に諮り、実行に移します。従って、理事会は、二か月に一度の割合で開催していることとなりますが、毎回の出席率は高く、各理事の熱意に感謝している次第です。



写真は「歴史探訪ツアー」のひとつコマ。

「ようこそ奈良へ」と鹿のウエルカムに、好物のせんべいをあげる会員さん。「一寸おっかな」その昔修学旅行でもこんな仕種で煎餅をあげたことがまるで昨日のことのように蘇ってきました。

守山・野洲支部活動の

活性化について

支部長 岩井 典弘

昨年の当支部の総会で始めて役員に就任し、同窓会の運営につきましましては諸先輩の指導、会員皆様の御支援、役員一同のバックアップ、そして私の今迄の経験を生かして取り組んでいきます。

当運営について如何にして支部活動を活性化させるかが私の課題でした。

この目的の為には何よりも先ず事業を積極的に行う事である。この方針の下に役員率先垂範、一致協力して推進しました結果

- 一、始めて支部作品展を開催
- 二、十九期生同窓会入会者と役員歓迎懇談会の実施
- 三、グランドゴルフ大会の初めての開催
- 四、日帰り研修旅行の実施 十一月十六日 絵野温泉
- 五、ミニ情報創刊号の発行

以上実施によって各分野で多くの参加者があって交流の輪(和)が広がり、集まりによって情報交換が出来、より相互信頼親睦を深め、この集約が同窓会の活性化発展に結びつくものと確信しております。

さて、本年度の対応ですが昨年度の反省を踏まえ、より

一層の内容の充実を図るべく努めています。先ずスタートは、五月十日開催の支部総会で如何に一人でも会員の出席を賜わるか。この為新趣向として、身近で関心のある講演会を計画。演題は「中仙道と朝鮮人街道かいわい」講師は郷土史家瀬川欣一先生に頼みました。一方遠距離御年配の方に一人でも多くと送迎用のバスを運行しました。当日は、本部より門馬副会長のご参加を頂き、御陰様にて二十九名の会員の出席を得て盛大に実施することが出来ました。そして事業計画と致しましては、

一、グランドゴルフ大会は年二回開催

一回目七月十二日立入公園グランドゴルフ場にて

二六名の参加あり

二、二十期生同窓会入会者と役員との歓迎懇談会の開催

九月二十九日吉身公民館にて 二十一名の出席

三、支部作品展 十月二十三日～十月二十九日

守山図書館にて開催

陶芸・書・絵画・写真・造花・紙芝居等

二十四名で三十九点の出品がありました。

四、日帰り研修旅行は十一月二十九日

あわら温泉 ホテルぐらばあ亭を計画

五、ミニ情報 年二回発行 一回目は九月一日発行

以上支部活動の活性化について報告申し上げます。

役員一同より内容の充実に努力致しますので、今後共会

員皆様の事業への積極的な御参加と御支援なり御意見を賜り度お願い申し上げます。



絵野温泉 希望荘前にて

甲賀支部の活動

支部長 今井 博

平成十一年度第十七号会報にあたり本部役員諸氏に心より感謝致します。

特に編集役員諸氏に重ねてお礼を申し上げます。

甲賀支部は皆様の御指導によりまして何とか事業を遂行させて頂きました。今後共尚一層の御支援御指導を心よりお願い申し上げます。現在私の任期も残り少なくなっておりましたが、一生懸命頑張りたいと思つて居ります。

平成十一年六月七日午前十時より碧水荘において総会を開催させて頂きました。私事で申し訳無いのですが四月に倒れ緊急入院し、五月中旬退院させて頂きましたので総会開催が延引しましたので会員各位にお詫びを申し上げます。

役員は全員留任、議事も無事終了し懇親会も賑やかで舞踊あり歌あり、江州音頭ありで午後三時終了盛会裏に役員一同感謝の念一杯で今年もヨーションやるぞと云う決意をさせて頂きました。

其の後次回役員会と開催本部の役員会の報告等で各町会員に伝える様にして頂きました。

八月十日本年は土山町が担当で研修と懇親会を開催されるので土山町の会員と郡三役で相談をし九月二日開催

と決定されました。

「坂は照る照る鈴鹿は曇るあいの土山雨が降る」東海道五十三次の宿場の内四十九番目の宿場として栄えた町の本陣跡や旧跡を土山町の御協力によりマイクロバスを利用して頂き青工ダム等美しく整備された所を見学と町担当職員の説明あり大変勉強になりました。終了後国民宿舎かもしか荘で懇親会、舞踊、江州音頭で大変賑やかに一日研修会が終了致しました。

土山町の少い会員各位と代表の谷北様に心より感謝とお礼を申し上げます。

丁度其の開催前の八月三十日私事ですが緊急入院し九月一日手術をし入院して居り九月二日に何とか出席をと医師にお願いしましたが許可が下りず断念しました。開催町の会員の皆様特に谷北さんに心よりお詫び申し上げます。参加者全員に土山名産のお茶まで準備して頂き重ねて町当局と担当地区会員各位に心からお礼申し上げます。

平成十二年度は甲賀町で開催と決定されました。その後本部の役員会で決定されました成果展、グラウンドゴルフ等も役員会で決定し現在に至った次第です。現在会員有志による一泊二日の親睦旅行を計画中です。各支部と違い平均に協力と広報が欠けて居る本会ですので前に成果展の広報誌を会員全員にと発言させて頂いた処先日の役員会の席上一々配布しなければならぬが大変良い事で今後共

会員全員にとの要望がありました。グラウンドゴルフの出場
会員も一生懸命練習して居られます。優勝は甲賀支部に決
定です？

私たち役員も残り六ヶ月何とか事故無く前進したく思っ
て居ります。本部もどうか宜しく御指導の程をお願いしま
ズイペンを止めさせて頂きます。

本部役員諸氏のご健康をお祈り致します。



近江八幡支部の

活動状況について

支部長 西川 甲三

一、概況

当支部は名前の如く近江八幡市のみを一支部としてい
ますが、市町村合併前の八つの学区（八幡、島、金田、岡
山、北里、武佐、馬淵、桐原）に、会員数の多少に応じて
二名ないし数名の地区幹事を選任して、連絡調整及び運営
に当たっています。

現在の会員数は、今年卒業の二十期生（十二名）を含め
て一八一名であります。

二、役員選考

平成十一年三月十七日に、ひまわり館に於いて今年度の
支部役員選考会を持ち、三役の四名すべてが交替すること
になりました。

選考の過程には種々紆余曲折がありました。ともあれ
伝統のある支部を活気に満ちたものとすると共に会員相
互の親睦を図って、よりよき支部となるように運営したい
と役員一同思っております。

三、支部総会

四月二十六日に坪清本店に於いて開催しました。近江八幡市長（代理）を始めとする来賓多数の御臨席を賜り盛大に挙行致しました。

米寿者の慶祝（六名）、物故者（六名）の冥福を祈って後、① 事業報告 ② 収支決算報告 ③ 十一年度の事業計画と予算の承認 ④ 新役員の承認を行いました。その後、来賓八名と出席会員五〇名とご懇親会を開き、意志のそ通を図りなごやかなうちに終了しました。

四、グランドゴルフ大会

六月二十八日に津田運動公園グランドに於いて、十七名の参加者によって行いました。

さわやかな晴天のもと賞品はささやかでありましたが参加者一同仲よく愉しくプレーが出来て、日頃の憂さを忘れられました。入賞者には本部大会への出場をお願いしました。

五、手 芸

八月二十四日にひまわり館において一輪差を作りました。馬場副会長の指導により十三名の会員が終始熱心に習作に取り組み完成をよろこびました。

六、講演会

九月十七日にひまわり館において「高齢者の生き方及び生き甲斐」について、文部省ボランティア推進企画委員であります谷村三郎先生をお迎えして約一時間半、有意義な話をお聴きしました。出席者は五十六名でした。

七、今後の予定

① 研修旅行

十一月十日

天の橋立方面へ。

② 手芸教室

十一月二十二日

干支の竜を製作。

③ 支部会報（十八号）

の作成、

十一月末頃。

④ 料理教室

十二月。



中部支部活動だより

支部長 武久 四郎

支部長職を預かって一年が経過し、二年目ともなれば、今年こそはの思いは、誰の目からみても「少しは良くなつた」位の評価を目標に努めている昨今です。

当支部にも第二十期を卒業された、二十二名の方が同窓会に入会され、これで総勢一九〇名の大世帯となりました。仲間が増えるとうことは、本当に素晴らしいことです。今後の活躍を期待しております。

一、平成十一年度支部活動計画

五月二十五日 中部支部第十六回定期総会

九月十日 支部だより第二号発行

十月十二日 中部支部第二回グランドゴルフ大会

役員会

四月二十四日 第一回理事会

八月二十日 第二回理事会

三月 第三回理事会

二、平成十一年度支部総会

恒例の支部総会は五月二十五日、八日市延命荘で開催されました。来賓として行政より市役所収入役の奥善夫様に

臨席していただきました。総会の冒頭に物故者に追悼の黙祷を捧げ、続いて奥善夫様よりお祝の言葉と、激励の祝辞を頂いた後、議事の進行に伴い、議案の審議が何れも承認可決され、総会は無事に終了致しました。

第二部に移り、アトラクションには、芸達者な有志の方達によって、それぞれの芸が披露され、会場も一段の盛り上がりと共に無事終了しました。

三、支部だより第二号発行

発行の内容は十月二十一日開催のグランドゴルフの案内と参加募集、本部支部の年間行事の連絡を主に発行しました。

◇支部だより発行検討事項

編集については現行の、ミニコミ情報「B4」一枚程度を継続し、発行については一号二号共に年一回の発行でしたが、これをせめてのこと、四季通じて四回程度の発行にすれば比較的ホットなニュースが提供できるものと思えます。また情報の収集についても、一方的なものに止めず、挙つて投稿に参加して頂き、楽しい情報誌に育ててゆきたいと思っております。

四、支部グランドゴルフ大会

大会は十月二十二日布施公園で開催されます。昨年は三

十二名の参加でしたが、今年は五十名程度を予定して準備を進めております。競技は昼食を挟んで行われ、賞も盛り沢山に準備しております。皆さんも美しい自然の中で、秋の一日を満喫されては如何ですか。

布施公園は平成五年に改修が終り、公園の総面積、二・九ヘクタールで、風致公園としても、又人々が水と緑に親しみ野鳥や昆虫、四季折々の植物など、自然が観察できる水辺公園として整備されました。一度は是非お越し下さい。

五、分会活動の促進

当支部は平成九年より、分会活動を推進するため、会員一人当り年間三〇〇円を会員数に応じて配分してしております。又、分会活動についても、それぞれ地域に合った行事が企画され、それに基づいて実施されております。新入会員歓迎会もその内の一つの行事と云えるでしょう。

支部活動と一言に云っても、何分一市七町が広範囲に点在する中で、一九〇名の会員が分布しており、これを随時一堂に会することは、大変至難の業で支部活動も自ずと年間一〜二の主行事に制約されます。寧ろそれぞれの立場で、地域活動を積極的に推進して、これに参加することこそが何より寛容かと思えます。

湖東支部からの報告

支部長 磯貝 澄雄

わが支部は米原校舎が出来てから急速に会員数が増加して、同窓会としては規模拡大に対応した組織改革をはじめ、事業や運営の見直しを迫られて平成五年以来諸改革に取り組んだのでありますが、数年経過した現在ようやく新しい態勢が確立されたというのが実態であります。

会員数は十年間で倍増したこと及び今後も増え続けることが予測されるうえに、会員の分布と密度が地域を問わず高まっていることから、小範囲での活動がし易くなったことと裏腹に、支部としての全体活動と運営が大変困難になって来た為に、支部の活動や運営を根本的に改めなければならぬ必要に迫られて改革に取り組んだのであります。

具体的な改革の方法については第十五号会報の中で規約改正その他の中身を紹介しましたので省略しますが、要は活動の単位を小さくして会員相互の連携を、より緊密にし、すべての会員が、直接間接に同窓会活動に参加出来るよう連絡網の整備と情報の相互伝達が円滑に出来ることを主眼にした運営組織と役員構成の整理を図ったことでもあります。

本年度活動の概要

一、分会活動の推進

高齢者にとっては成る可く近くで仲間と一緒に楽しみたいというのは当然で、活動範囲もおのずと地域に限定されて来るので、同窓会活動の中心を各分会に置き、地域の特性に応じた企画と運営を行っています。その推進役は各分会長（副支部長）で、予算配分も会員数に応じて行っています。分会活動の実態は、昨年、一昨年本誌第十五、十六号で彦根及び、犬上各分会の概要を報告しましたので今回は愛知分会の一部について紹介します。

・俳句会 毎月一回定期的に開催

会員約三〇名 各五句ずつ持ち寄り互いに披露し合
い、後講師の指導を仰ぐ。

・短歌クラブ 毎月一回定期的に開催

一人一〇句持ち寄り各自披露して批評し合った後、講師の指導を受ける。

・グランドゴルフ、ゲートボール練習会

各在所毎に毎週一回活動している。

二、情報の相互伝達と連絡網の整備

① 会員名簿の整備

すべての会員に会の動向や行事などの諸情報が細大も
らさず届けられ、また逆に各会員からの意見や要望が執行

部に伝えられて、会の運営に反映されてこそ、会に対する
関心も高まり、積極的な参加も期待出来るので、各分会ご
とに町別・字別名簿とその区域の代表（常任委員）を明記
した地区別名簿を整備してこれを会員に配布することに
より会員の把握と会費の徴収にも活用している。

② 支部会報の発行

同様の趣旨から今のところ年一回、手作りの会報を発行
しています。本年度は第三号であります。支部総会に於
いて年間行事計画や予算、役員名等、議案書として全会員
に配布しているので今回からは、本年度初の事業として、
グランドゴルフ競技会（県大会予選を兼ねる）や各分会活
動の状況、或いは支部会員名簿などが中心となろうかと思っ
ています。将来的には、これが会員相互の意見交換の場と
しての機能ももつような形に出来ればと考えています。

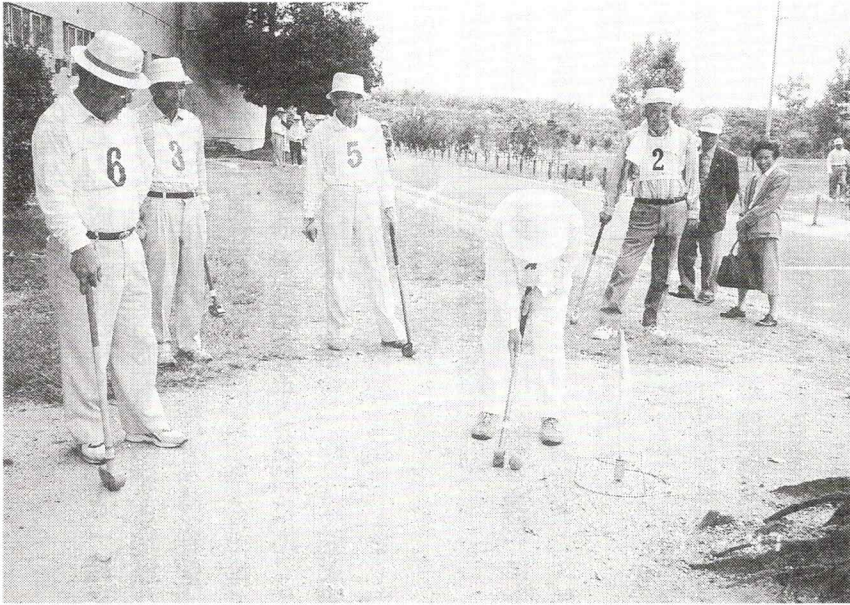
三、その他

③ 講演会

支部総会と同時に講演会を実施しています。同窓会行事
で最も希望の多いのは講演会で、今年は「女の一生」と題
して第十一期園芸科卒の福原範彦氏に講師をお願いして
一時間余り、ユーモアとすぐれた話術で多くの聴衆を魅了
させられました。

④ グランドゴルフ競技会

県本部の事業として支部対抗大会が行われることになったので、支部代表選手の選考を兼ねて八月三十一日、彦根庄境グラウンドで実施しました。猛暑の中、二十一名の参加者が四グループに分かれて技を競いました。



大会を前に、練習に励むグランドゴルフ代表選手

会報発行を例として

湖北支部活動の一端

支部長 林 憲雄

平成元年十月十三日米原交流会館で第十一期生が誕生以来県内北部よりの通学が容易になり大学生増加と共に同窓会も飛躍的に増加の方向を辿り湖北支部発展の基盤が出来上がったのである。それ以来十年の年月が流れ、本年度二十期生の参加により同窓会員も三百二十二名の大世帯となり支部活動も一段と会員の熱意が感じられるようになった次第である。

今回は会報発行を例として支部活動の模様を説明し各位の御指導をいただき、更に向上のための努力をつみ重ねたいと思っている。平成七年度当時の松下先輩のお骨折りにより十一月三日創刊号発行以来先輩諸氏の努力と近江八幡支部の御指導を得て発行のよるこびを味わうことが出来、会員一同も支部活動への関心を決めることが出来たのである。当時の原稿募集の要領をふりかえてみると、

- (1) 俳句短歌等は何でも御自由です。
- (2) 老人大学で学んだことを基礎にして現在どのようなように生きていくかを可能なかぎり自己の生きざまを書く

とよい。

- (3) 老人大学の単なる思い出や入学当時のことは書かない。

以上のようなことを考えて編集に当たったことはつい先日のことのような印象で創刊号を手にした喜びは何物にもかえがたい思い出であった。会報も二号三号と先輩の意志を継続して第四号を発刊する時には文章の内容もなるべく固いことはさておき、リラックスして普段着のまま気楽な雰囲気でも原稿用紙に向かい一人一枚を原則として書いてもらう様にして原稿を募集したのであった。

- ① 最もたのしかった思い出
 - ② 失敗して困ったときのお話
 - ③ 病院でお世話になりありがたく思ったこと
 - ④ 見知らぬ人から親切にもらったお話
 - ⑤ ゲートボール時の感想
 - ⑥ 農作業の成功例や失敗談
 - ⑦ 旅行中の感想、してもらったり、してやった話
 - ⑧ 世相を見て腹の立つことや、うれしかった話
 - ⑨ テレビや新聞を見ての感想
 - ⑩ 強く印象に残って今でもはっきりおぼえている話
- どんな内容でも結構ですがひとつだけ披露してもらったところ多数の公募をいただき、関係者一同感激した次第であった。

本年度第五号編集を計画し次のような要領のもとで会報発行の日を夢みて編集に当たっている。

第一回編集委員会 七月四日 十一名出席

原稿募集方向と印刷業者選定方向について
広告料の募集について

第二回編集委員会 九月六日 会員九名出席

原稿の募集広告料まとめ

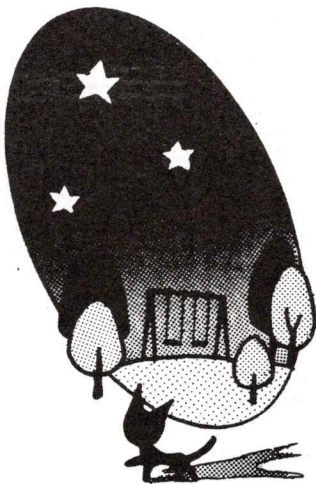
編集方向の確認 二十期生の加入について

第三回編集委員会の予定 十月下旬か十一月始め

辞書持参して原稿文の点検

配本計画について

会報発行を一つの軸にして三百余名の横へのつながりが出来ると共に会員相互の親近感も醸成されレイカデイア湖北支部としての共通意識が生じて来るのではないかと確信している。



高島支部の活動

支部長 川島 義一

一、平成十一年度高島支部総会

平成十一年五月二十四日

新旭町川新に於いて開催、会員三十一名出席

(1) 平成十年度事業経過報告

十一年度新入会者紹介、会計収支決算報告

(2) 平成十一、十二年度役員選出の件

支部会則が昨年の総会時に議決されましたので、それぞれ別室で協議し、左記の様に決定されました。

支部長 川島 義一(新旭町)

副支部長 伊藤 宏(安曇川町)

〃 桑原 文子(新旭町)

庶務会計 田中 寛(新旭町)

幹事 川元 繁雄(今津町)

〃 山本 弘一(高島町)

監事 熊谷 正三(安曇川町)

〃 岡田 順治(新旭町)

(註) 伊藤、田中様の両名は幹事

(安曇川町、新旭町地区担当)

川元様は今津、マキノ町の地区幹事を兼ねていただきます。

その他、懇親会に入り熊谷、桑原様のあざやかな手品の数々、なごやかな内に時間が過ぎ楽しい一日を終える

(会員)

町 村	男	女	計
マキノ町	2	1	3
今津町	8	4	12
朽木村	1	0	1
安曇川町	9	5	14
高島町	13	12	25
新旭町	15	8	23
合 計	48	30	78

(内新会員5)

二、平成十一年度県総会

六月九日 米原文化産業交流会館で開催され、十二名出席、総会后、アトラクションがあり、当支部より桑原俊雄、饗庭健治、熊谷正三、桑原文子様が出席され名演技を披露される。

三、公開講座

七月十七日 米原文化産業交流会館 金子辰雄氏の講演を聞く 二十四名聴講

四、高島支部幹事会

八月六日 新旭町総合福祉センター
(やすらぎ荘)

- (1) 町村対抗グランドゴルフ大会について
- (2) レイカディアフェスティバル九九について
- (3) その他 一日研修、日帰り親睦旅行について

五、町村対抗グランドゴルフ大会

八月二十三日 新旭町森林スポーツ公園

多目的広場 二十一名出席

三組に分かれプレー、日頃各地区でされている人もあり、優れたプレーも見られ楽しいひとときを過ごしました。

最優秀なチーム（高島、新旭）十月十三日、近江八幡市運動公園で開催された支部対抗グランドゴルフ大会に出場していただきました。

此の度の役員改選に依り、私ごとき者に支部長をせよとの事で身の引き締まる思いです。前任の志連支部長様には永年会の運営に御尽力下され本当に御苦労さまでした。

長寿の秘訣は、心のささえ、ふれあいの心をもつ人は老いが言われていきます。横の絆をしっかりとりながら高齢化社会を乗りきりたいと思います。

私も一旦引き受けたからには役員一同協力して、会員の御意見を聞きながら地域社会に貢献する所存です。

地理的に高島支部は恵まれて居りません。種々と行事が計画されて居りますが遠方で出にくい、しかし各会員は大の建学の精神を忘れずに夫々の地域でボランティア活

動をされて居ります。



町村対抗グランドゴルフ大会

随筆

これでよいのか原発

大津支部 第五期生

文芸学科 山本 良雄

茨城県東海村のJOCで臨界事故が九月三十一日起き、作業員の何名かが被爆したとの発表である。作業員というのは正社員であったかは明白でない。マスコミではその中に教育をうけた係長とか課長とか、責任ある者が居たかには疑問が残る。居たらマニュアル通りやるだろうから、事故を起こすとはまず考えられない。下請業者からの派遣労働者ではなかったか。危険な作業だから比較的高給だという魅力に惹かれた臨時雇員ではなかったか。マニュアルを破って作業したから、この事故が起きたと推測される。放射能は眼に見えないから、電気のようにビリッとくる触感もないから、みすみす危険を冒すこととなる。

思い起こすのはヒロシマである。私は当時、陸軍中尉で第二総軍の大本営通信隊付であった。総軍の通信掛将校が大腿部骨折の重傷であったから、私が代わりに大本営に報告に行くことになった。七日、総軍のサイドカーで広島市周辺の被害状況を見てまわった。八日早朝国鉄で上京し

た。この時乗りあわせた長髪の中尉が、「こんどは京都か長崎がやられる」と言ったのが印象に残った。

九日早朝東京着、大本営通信隊司令部の参謀と共に大本営へ行った。参謀肩書がこんなに沢山揃ったのは初めてであった。彼らに広島の状態を伝えるとともに質疑応答していると、「只今、長崎にこれと同じ新型爆弾が投下された」旨の報告があった。一瞬シーンと室内が静まり返った記憶がある。

ヒロシマに帰ると火傷も何もしていない者が、次つぎに急逝していった。その当時「放射能」について無知であったから不思議でならなかった。頭髪がプツプツと抜ける。鼻血が出る。歯ぐきからも出血する。夜中高熱を発し、明け方までには大抵死ぬ。毎朝、被爆者は髪がぬけないか引っぱって確かめるのが慣わしであった。

あの八月六日、朝から公用外出していた上等兵が帰隊した。その話を聞いた。B二九が一機上空にいたのは知っていた。空襲警報どころか警戒警報解除だから変だと思っていた。するとパッと閃光があり、西の方、広島城の天守閣が微塵に吹っ飛ぶのが見えた。暫くして彼は急に血を吐いて死んだ。

眼にみえない放射能の恐怖、これに対する効果的な防護、政府の対応策は万全なのか。日本各地の原子力発電所は大丈夫なのか。(九九・一〇・一)

洛北を訪ねて

大津支部 第九期生
文芸学科 福谷 かよ

京都駅から地下鉄に乗り北大路で下車する。タクシーを拾って街の雑踏を抜けるとやがて右手に大徳寺が見える。訪ねる洛北の名園“しろうざん”は直ぐそこにある。静寂に包まれたみやびやかな建物が点在している。紙屋川の清流を囲んで鷹ヶ峰三山の麓に開けた三萬五千坪の日本庭園。

これが京都が誇る自然と文化の殿。“しろうざん”である。

庭園をそぞろ歩くと樹令二百年、三百年の北山杉が植えてこまれている。根本一メートル程の部分奇妙にくねらせその先に真っ直天に向って伸びた小枝が何本か見える。実に立派なよい庭木である。蒼く渋味のある紀州石が調和よく配されている。足許は手入れの行き届いた杉苔こんもりと美しい。その年は比較的暖冬であった所為か梅の老木に一杯の蕾がかなり膨らんでいた。もう二週間もすれば満開になるだろうと思われた。馬酔木の木もちらほら目に入る。枯山水の庭園には庭園には見られないような雄大な自然のままの“わび”“さび”を味わうことが出来た。清冽な天神川の流れ、手に触れる水の冷たさは格別である。沢

渡りの石を伝って下の小路に降りる。この路は金閣寺へ通ずるとか。

この南庭の一郭に京都伝統の染織工芸館がある。若い頃一度手を通したいと願った、しろうざんのおめしの着物、おそろくここが発生の地であろうと思う。

日々の暮しの汚れを落とし、久々に満ち足りた清々しいよるこびに浸りつつなかなか味わうことの出来ない気持ちで日暮近く洛北を後にした。三、四年前に友達と二人で行ったしろうざんをなつかしく思い出すまま今年も是非行ってみたい思いにかられ、その昔を頭に胸に描きながら書きつづりました。

* 夕立や湖水に比良の影にこし

* 土用干しの色づく梅の酸味かな

* 夏まつり江州音頭風にゆれ



近時雑感

(さいきん こんなことを おもっています)

大津支部 第十一期生

文芸学科 門馬 三郎

§老人大学十一期生同窓会

我々は平成二年卒業以来、毎年県内各地で同窓生で懇親会を持っています。格別に特記するようなことでも有りません。百三名の卒業生の内十八名が亡くなられています。数名よりは連絡が無く、返信すら出せない状況になっています。のかと懸念されます。やはり、このような、会に参加をしようと思うのも一つの思い切りが必要な様です。

今年は大津地区が当番となつたので、十月十日の大津祭りの日に琵琶湖ホテルで行いました。

参加者は二十六名でした。昼食・懇談を終わって、三々五々と大津祭りの山鉾を見にいき流れ解散しました。(年の所為かアルコールの量がめっきり減っています)

§喜寿会の例会の盛大を祝う(七十七歳まで創陶する会)

陶芸学科の卒業生が年代を縦断的に集まっている同好会である。大津支部の十二期の高野喜六氏が主宰で会員二十六名。隔年に成果展を行っている。今年は大津歴史博物

館でおこなわれた。ご招待を受けていたので鑑賞に何う。何時もながら、単なる趣味の域を出ている作品群に目を見張る。

大学で習得した技術が基礎だから、教育の成果が社会で華開くと言うことだ。陶芸の卒業生は他にも、公民館でのサークルで指導や作品の製作で活動している人が多い。

園芸学科の卒業生も得た知識で早速に地元社会に貢献されている人が多数おられるようだ。何れも身に付けた基本で地域作りにリーダーとして活躍しており「大学開学の理念」に合った行動で、同窓会としても喜ばしい

会場で旧知や思いがけない人に会ったのも嬉しかった。これが、同窓会の人間網の良いところと思う。

§シンガポール訪問

県環境保全財団の主催で「クリーン都市」のシンガポールを訪問しました。緑が多く、ゴミの無い綺麗な都市として県民の環境整備の参考にすべきとの目的です。シ市環境庁を訪問しました。

道路・歩道・緑地帯は余裕が有り「狭い国土にどうして」と日本に比べて不思議に思えます。建物は道から幅をもって、奥まって建っています。下町の商店街等は別にして。

奇麗好き・几帳面な国。また、国民もそのように躰をさめています。大津では「ゴミのポイ捨ては止めよう」とマ

ナー向上の掛け声運動ですが、シ市ではマナー違反は罰則。色々と国家統制はしている様です。

有料道路地帯が市内繁華街に設けられていて、個々の車は無線で発信しプリペイドカードで支払っているのがゲートでの渋滞はありません。(日本では実験段階との事)

シ市では二千年を世紀の祝典として現在・未来へと祝賀一色です。日本ではY2Kとコンピュータの誤作動の発生に大騒ぎですが(免税店で買い物クレジットカード



でしたがコンピューター化は進んでいました)

慎重なのは肝心ですが、千年紀として陽気なイベントにしつらえている発想は楽しいようです。

日本人は経済的生産性では羨望されていても、歴史的には尊敬はされていないようです。

一病息災で古希を迎える「随想」

大津支部 第十五期生

園芸学科 小林 郁郎

今年、七十一歳になり「人生七十古来稀」といわれた七十歳は満年齢か数え年かは判らないが、いずれにしてもその齢に達し、今にしてよくこれまで生きられたと思う反面、この七十年の間なにをして来たかと考え込む。

もう三十年も前になるある日、突然目に影が映るようになり、眼科医の診療を受けたところ、すぐ内科医の診察を受けよとのこととで内科医に診てもらったところ即、糖尿病との診断が下され、爾来今日までこの病を背負って今日に至っている。

当時、まだ四十歳を過ぎたばかりで、年代的にも働き盛りの時期で、自覚症状のないこの病気はややもするとつい忘れ、不摂生になりがちで年一回の定期検診も常に「要注意」であった。その間、最も恐れる入併症も出さず幸いであったが、定年後は町内のかかりつけの診療所で診てもらっており、三年程前に医師から「高齢になると今まで発病しなかった余病が併発する恐れがあるから、この際精密検査と適切な療養の仕方を体験するために入院を試みたら……」と勧められ、市内の病院に三週間の検査入院をした。

退院後は、処方を守って規則正しい生活のお陰で毎月の

検査結果もだんだんとよくなり、医師からも優等生だと言われている昨今である。これからも不治の病と大事につき合っていかなければならないと思っている。

レイカディアとの関わりは、平成四年に県老人大学に入學し、同六年にレイカディア大学を皆出席で卒業し、その後も淡海塾「古典講座」を五年間十回に亘ってこの九月まで欠かさず受講し、古典に出てくる近江の歴史に触れ視野を広めることができた。

その他はもっぱら旅行やレイカディア大学で専攻した盆栽を趣味として地元公民館での小品盆栽クラブでの交流、農協が実施している稲作休耕田の「青空農園」を利用して野菜の栽培等何かと忙しく暮らしている。

昨年から地元の学区社会福祉協議会から手助けを頼まれ、会計の事務に携わっており、このため地元の社会福祉や他府県への研修から社協活動の一端をうかがい知りつつある現状である。

昨今の悩みは盆栽づくりが昂じて鉢数が増え、水管理に手間がかかり留守にできなく、従って長期間の旅行ができず、妻の不満を買っている始末である。

今後、いつまで生きられるか判らないが、私生活に潤いを保ちながら、社会に対し少しでも貢献できるよう努めたいと思っている。

同窓会活動に参加して

大津支部 第十九期生

園芸学科 和田 守立

去年園芸学科を卒業して本会へ入会し、一年間大津支部活動のお手伝いをしたので、これを振り返り今後の活動について考えてみた。

先ず入学時の募集要項に「大学の学習成果を活かして地域におけるリーダーとしての活動が出来る方の養成」とある。実際の支部活動を見ると、大津支部は会員も多く、幹部の方はその運営に大変苦労されている。支部会員の年齢構成を見てもこれまで昭和生まれの方が四割であったものが、二十期の新入会員は全員昭和生れの方となっている。（年齢層が段々と若返っている）最近是新入会員の方々の退会者が目立つ傾向になったとも聞いている。そろそろ本会の活動にも変化が求められているのではなからうか。

そこで会員の期待する活動とは

第一に一般的に同窓会とは懇親会や旅行で親睦を図ることにある。開催の都度幹事が計画し費用は各人が負担して行うやり方であり、継続した活動法である。

第二の活動は

イ 趣味の同好会的なもの、例えば書道・俳句・絵・陶

芸・盆栽等学校で習得した技能を研鑽していくものである。

ロ 健康の維持管理を目標とした同行会活動で、例えばゲートボール・ゴルフ・山登り等である。

これらは参加者が集まればリーダー・会場を決め、実費を各人負担として実行するやり方である。どんな同行会を開設するか一度意見を纏めてみたいものである。

第三は地域活動への参加

イ 先ず家の近くの地域活動の参加である。一般にはボランティア活動とか自治会活動の中にあるものだろう。地域における日常生活での問題点を掘り起し、その解決に協力することから始めてみたい。

ロ 自治体レベルや市民活動への参加

各種の自治体・市・公営の施設等で人員不足のため十分市民サービスが行われていないことがあると思う。これを調査し、われわれレベルで実行出来るものを見付け、その活動体制作りをしてみたい。市レベルの活動が出来ればと夢見ている。或る地域では本会の会員が活躍し、既に成果を上げておられるとも聞いている。

学校の講義でも具体的体験談や成功例も数多く学習し知識を得ている。この知識を具体的に活用する機

会がなく失望した若い会員が退会しているのではなからうか。前にも述べたが最近は六十才代の会員が増え活動能力のある方が沢山おられる。是非この力を活用してほしい。

第四は成果発表による会員相互の研鑽と会員の活性化

現在も色々な成果発表が行なわれており、更に会員相互の意識が向上し満足感を与え本会が増々栄えることを望む。

俳句でつづる「天平の里」

湖南支部 第十六期生

生活学科 杉村 嘉子

湖南支部では、本年七月十三日『天平の里、歴史探訪ツアー』が催された。梅雨が明けきらず、「奈良県地方雨もよう」と報じられるなか、一行二十一名をまさかの晴天が迎えてくれた。そんな一日を振り返ってみたい。

唐招提寺では炎天下、折しも金堂の、鴟尾の修理の真最中。大屋根の東西に頂く一对の鴟尾のうち、西側のものは創建当時（七五九年）のまま今まで保ち耐えてきたという。寺名の「唐」とは「広く」、「招堤」とは「み仏のもとで修行する」という意味が込められているとか。地元の人シルバークレイドさんから教わった。

唐招提寺は多くの堂塔を有し、なかでも金堂はこの名刹を象徴する建造物。「日本建築史上の黄金時代」といわれる奈良時代においても唐招提寺金堂は法隆寺夢殿や東大寺法華堂と並んで傑作とされる。鑑真和上が艱難辛苦の十二年間を経て志を遂げられたその折に、和上に同行した弟子たちによって建てられたという。堂内には本尊「盧遮那仏像」をはじめ莊嚴な趣のみ仏が数多く安置され、そんな遺構の中に身を置くと、「千二百年の時空をタイムスリップ」の心地。

天平の堂の鷓尾反り雲の峰

校倉の経堂めぐる夏の蝶

次は、有名な高松塚古墳へ。昭和四十七年、明日香村のお百姓さんが野菜を貯蔵しようとして土を掘っていたところ、鍬に当たるものがあつた。それがマスコミも挙つて繰り広げた世紀の発掘劇の始まり。高松塚古墳は国宝のため直かに見ることは残念ながら出来ないが、近くの『高松塚壁画館』では原寸大の色鮮やかな模写を見学し、往時の絵師の技の見事さに感服した。

老鶯や高松塚の錠固し

裳裾ひく天平の女瞳の涼し

昼食後は石舞台、そして奈良国立博物館へ。博物館では彫刻、絵画、書など天平の仏教美術の名品をはじめ、全国各地で出土した土偶や銅鐸などの考古品が展示され、時間

が許されれば、もっとゆっくり鑑賞していたいと思った。

峰雲を湧き立たせる石舞台

石室の常蔭の涼去り難し

かねてより一度訪ねてみたいとは希っていても、なかなか実現出来なかった『天平の里』への旅。今回、支部長様や当番幹事の方がたの御尽力で有意義な一日を過ごさせて頂いたことを心から感謝したい。

菊の香や仏のみ胸大きかり

素人さんの天気予察

湖南支部 第十七期生

園芸学科 花田 賢司

昨秋の湖南支部の旅行の担当が私達第三班（十二期文芸伊藤、十七期園芸木村、十八期陶芸江龍の各氏と小生）に回ってきました。

旅行者の推薦する中から「草津↓明石大橋↓淡路島↓関西空港を海上から眺めて↓泉佐野↓白浜一泊↓高野山↓草津」のコースは決定したが、「一番氣候の良い時期に実施しよう!! いつ頃が良いでしょう?」ということになりました。

その昔、船乗り↓体育教師↓スポーツセンター勤務で「〇〇殺すに刃物は要らぬ、雨の三日も降ればよい」の

喩えどおり、長年お天気にも悩まされたことが甦り、今回の旅行担当を契機に、手元の参考書を調べてみました。

一、「お天気ごよみ」(朝日新聞編 倉嶋厚監修 河出書房新書発行)に、札幌・仙台・新潟・東京・名古屋・大阪・福岡の各気象台で、これまで毎日観測してきた天気を、晴と雨(雪を含む)〔表には晴と雨しかないが、曇は一〇〇からそれらを引く〕に大別し、それぞれの天気がどのくらいの割合で現れたかを、各地の「お天気打率(晴雨率)」と称してパーセントで示しています。

統計期間は、それぞれの地点によって異なるが、短いもので仙台の四十五年間、長いのは東京の九十二年間で、い

ずれも天気の平均傾向を知るのには、十分に長い期間であります。

旅行やスポーツ・レジャー等の計画を立案するに当たっては、先ず第一表により、週間降雨日数の一番少い週を捜し、これに気温・日没時刻を配慮しましょう。

お天気打率の見方

- (1) 雨/週 雨天のみの週間比率(降雨日数/週)
- (2) 雨/月 雨天のみの月間比率(降雨日数/月)
- (3) 気温 各週(月間)の最高・最低気温の平均値
- (4) 日没 毎月一日の当該時刻の概数

日付	9月		10月		11月	
	晴	雨	晴	雨	晴	雨
1	57%	33%	48	32	62	27
2	52	32	48	34	63	22
3	62	26	55	32	69	22
4	53	39	48	39	52	33
5	61	28	46	39	62	33
6	49	35	46	39	64	24
7	53	40	48	36	74	20
雨/週	33% (2.3日)		36 (2.5)		27 (1.9)	
気温	30	18	24	16	19	11
8	60	32	49	33	66	17
9	54	30	60	27	63	29
10	51	43	55	29	62	27
11	49	37	65	21	67	19
12	47	36	57	29	70	22
13	52	38	62	25	66	20
14	44	46	60	25	67	26
雨/週	37 (2.6)		27 (1.9)		23 (1.6)	
気温	29	22	21	15	18	10
15	40	44	54	32	63	20
16	47	36	61	30	58	26
17	52	35	57	34	54	22
18	54	39	62	22	54	34
19	57	29	64	19	61	22
20	38	43	52	30	60	26
21	43	39	62	22	61	21
雨/週	38 (2.7)		27 (1.9)		24 (1.7)	
気温	26	18	24	16	14	7
22	47	39	65	18	65	20
23	45	38	60	17	67	16
24	47	37	60	25	70	21
25	36	46	54	33	56	25
26	49	36	57	30	62	27
27	52	38	63	24	56	27
28	52	25	60	29	55	27
雨/週	37 (2.6)		25 (1.8)		23 (1.6)	
気温	24	15	21	13	12	5
29	45	37	52	32	64	20
30	37	43	54	34	54	30
31	-	-	62	27	-	-
雨/週	40 (0.8)		31 (0.9)		25 (0.5)	
気温	26	16	17	9	9	3
雨/月	37 (11.0)		29 (9.0)		24 (7.3)	
気温	27	19	22	14	16	8
日没	0530	1825	0550	1745	0620	1705

第1表 大阪のお天気打率(M16~S46:89年間)

日付	9 月					10 月					11 月																		
	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	66	67	68	69	70	71	72	73	74
1	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉
2	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉
3	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉
4	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉
5	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉
6	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉
7	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉
8	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉
9	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉
10	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉
11	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉
12	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉
13	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉
14	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉
15	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉
16	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉
17	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉
18	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉
19	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉
20	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉
21	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉
22	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉
23	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉
24	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉
25	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉
26	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉
27	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉
28	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉
29	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉
30	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉
31	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉	☉

第2表 大阪の天候ダイアグラム(1966~75)

○ 快晴	一日(3・6・15・21時)の平均雲量が1.4 以下
⊙ 晴	同右の平均雲量が1.5 以上 8.4以下
⊗ 曇	同右の平均雲量が8.5 以上
● 雨	一日(24時間)の雨量が5ミリ以上
● 雨	同右の雨量が1ミリ以上 4.9ミリ以下
* 雪	一日(9・15・21時)の積雪量が1センチ以上

天候ダイアグラムの見方

二、しかし、統計の調査期間が、大阪でも八十九年と長いので「気象年間七十七年版」(日本気象協会編 気象庁監修 大蔵省印刷局発行)から第二表にある「天候ダイアグラム」により、今年の天気、西暦〇〇年に類似しているかを捜して、週の前半か後半かの最終決定をします。当たるとも八卦、当たらずも八卦。人事を尽くして、お天道さまのお恵みを待ちましょう。

なお、全国各気象台の通年資料は、三十数ページとなるので、紙面の都合で割愛しますが、各支部の行事設定の際にご活用されてはいかがでしょうか。

謡曲を始めて

湖南支部 十七期生

文芸学科 宇野 愛子

「天の原。ふりさけ見れば霞立つ。雲路まどいて。行方知らずも住み馴れし空に何時しか行く雲の羨ましき気色かな……。」これは羽衣という曲の一節です。（「内の〇は台本のまま）本曲は羽衣説話（世界の各地に拡がっている白鳥処女説話の一種）に取材したもので、それは、駿河・近江・丹後などに伝わっています。その中で原型に近いのは駿河のもので、詳しいのは丹後のものであるとされています。それには「天の原ふりされ見れば」の歌も、又、人間界には偽りが行われていますが、天人は信義を本とするという事などもみえています。何れの民間説話でも天女は漁夫と結婚するか、或いはしないまでも永く人間として地上の生活を送ることになっています。それを本曲の作者が芸術的に浄化している所は大いに注目すべき点です。そこで清浄さと可憐さを表わすことが肝要になってくるわけです。

ところで近江余呉湖にまつわる伝承では、天女にとり残された男の子は聡明に育ちました。菅原是善という人が余呉湖に遊びに来て桐畑大夫（漁夫）の家に泊り、この賢い子どもを養子にしたといわれています。その子どもは菅山

寺に勉強し、成人して菅原道真になったと言い伝えられています。湖岸には天女の掛けたという衣掛けの柳の大木が現存しています。

知人に勧められて幽親会に入会しましたのは二年前のことです。その会の目標は「声楽の原拠の探究と、台本からは諸々の歴史を知り更に人としての情操を養うため」とあります。月二回の練習には、大声を張り上げ謡っていますが、同じ記号でもその曲によって節まわしや声の高低の出し方が異り、とても苦労しています。そして最近やっと、羽衣の曲を習い始めたばかりです。小さな発表会には他の仲間たちと連吟に加わっています。そこでは合わせるということがより大切になり身勝手は許されません。年一度の歴史探訪も幾度か訪れた土地であっても仲間が変われば、又楽しいものです。この九月に湖北路へ一泊の旅に出ました。羽衣伝説の余呉湖周辺では楽しい一時をすごしました。又能楽資料館では、豪華絢爛たる能衣装に目がくらみ、能面の数々を間近に鑑賞でき、猩々の紅さす面にも出合えました。帰りには古戦場の賤ヶ岳に登り、今更ながら雄大な眺めに感動しました。

・萩の風横文字混る絵馬の高

市で開催されている薪能も、衣装や舞の美しさだけではなく、素謡の聞きとりには台本を持って観賞しています。

新しい物が次々と開発され便利になりましたが、古きも

の中にも夫々のよさが現存していることをしみじみと味わっています。そして人と人との和の中で、学ぶこと自体楽しんでいきます。

「私の夢」

マッシュルームの

家庭園芸的栽培

湖南支部 第十七期生

生活学科 吉倉 定一

あの真白く丸くて可愛いマッシュルームは洋風、和風料理にいろいろ利用され美味しく栄養価の高いものです。消費量はその国の食文化の進歩と比例関係にあるとさえいわれております。我が国はまだまだ少ない方です。

またマッシュルームエキスは消臭除臭食品として静かなブームを呼んでいます。これは含まれる多糖類による腸内悪臭成分の吸着によるもので、寝たっきりのお年寄りの便臭や体臭が少なくなるので介護食品として、また抗癌、抗血栓作用、痴呆症改善作用があるといわれております。

このような素晴らしいキノコを家庭園芸的に栽培できないものかと夢をふくらませ、バイオテクノロジー（生物工学）を勉強しながら独自の工夫をこらし実験しています。種菌を販売している所もあるようですが、自分で作って

みたいと思ひマッシュルームの組織培養から始めました。

組織培養の培地の処方による菌糸の成育テストでは、馬鈴薯寒天培地が最もいいようでした。

次は伸びた菌糸を拡大培養基に移します。この培地の種類もいろいろ実験しましたが、私の考案した鹿沼土に米糠を加えたものが一番発育良好でした。これで種菌が出来あがりです。

次はコンポストへの接種です。もともとマッシュルーム栽培は馬肥の利用から発展したのですが、今は馬の飼育がありません。それに代わって稲藁を切って発酵させたものが使われたようですが、その稲も刈り入れと同時に裁断され田に撒かれるので、藁の入手が困難となりマッシュルーム栽培の隘路ともなっているようです。

幸い近くに栗東トレセンの馬厩肥の払い下げをうけて、これを発酵させて堆肥を作り、バイオグリーンホームという商品名で販売している栗東有機生産組合があります。このコンポストを使用することに着目しています。

さらに今後の研究課題として、家庭生ゴミのコンポストの利用も検討したいと考えています。

栽培施設として温湿度調整が出来、衛生的な菌舎が必須なのでしょうが、私はあくまで家庭園芸的栽培を考えているので、軒下等でいろいろ創意工夫した箱栽培を考えています。適当な大きさの発泡スチロールの箱が入手出来れば、

これもたぶんいい容器として使用できるでしょう。
未完成ですが私の夢として

忘れてはならないこと

守山・野洲支部 第九期生

陶芸学科 中村 勝一

一九四五年八月十五日 アメリカ・イギリスをはじめとする欧州諸国と斗い破れた「敗戦の日」である。「終戦」と云う名称は誤りである。歴史は過去の真実を素直に次代に伝えよう。多数の戦没者の方々の尊い犠牲により、日本国は辛うじて手狭な四島の中に現在のように発展を約束され、私達国民も生かされている。私の学友にも極寒のシベリアへ敗戦時拉致されコルホーズ（集団営農場）や炭坑労働者として旧ソ連邦にて強制労働を強制され、洗脳されようやく帰国し長期間病床に伏し、近年亡くなった。

「ピカドン」と当時は原子力爆弾を呼称したように記憶するが、絶対的な国力・技術力の差で無様な侵略戦争は終った。この現実を素直に認めることが、国民の代表である日本政府が、東南アジアをはじめ世界の平和外交の舞台で発言権を強めることに違いない。

日本が平和国家を宣言するなら、「日本国憲法」問題もあらためて幅広い視野に立ち、論議を展開すべきであろう。

安保・教育問題・環境整備に役立つバブル崩壊後の経済政策等々の各政党間の具体的論議は皆無に近くアナクロニズムと評されても止むを得ないであろう。

一九九五年一月十七日早朝の阪神大震災・都市真下型の被害は五千名以上の被災者を出した。我々はあらためて地震国の上に生活の場を求めている事を銘記させられた。

一九八九年十一月頃より起こった弁護士一家の拉致殺害事件にはじまる「おうむ真理教」による不法監禁・集団的行為による毒物サリンによる人的・物的被害。何故当時加害者のエリートらしき若者等の入信動機、宗教と科学との問題。何故反社会性なのか？そして破壊活動防止法の不適用の理由！

後悔を繰り返さぬ為、いつまでも平和ボケにならぬ為、今一度日本国が沈没しないよう現状認識する自由も残されていると思う。



詩作とボケ防止

守山・野洲支部 第十期生

園芸学科 竹林 治平

自分は去る八月米寿を迎え、元来ひ弱な者、よくぞ今日まで来たと思ひ只々神仏世恩に感謝するのみである。長年糖尿で今も治療をつづけている。体力作りに散歩を欠かす事なく、又、ボケ防止にと十年程前に滋賀文教短期大学で古典文学鑑賞講座が開かれた時、これはボケ防止には良いかと早速受講し漢詩を学び詩の生命である平仄押韻の定法を知り、詩の読や作詩方を学び、修了証書も頂いたがなかなかむつかしく今でも推敲を重ねつつ詩作をつづけているが間違ひも多くて自信はない。然し始めの目的ボケ防止には役立っていると思う七言絶句二首を記し欄筆とします。

米寿感想（平起押韻元）

齡迎米寿恵風温 賜下神明不老門

恭懼拝受觴祝寿の無量不朽謝天恩

四君子（平起押韻陽）

一庭菊送送幽香 抱節無心竹裡莊

馥郁梅花一瓢酌 生蘭溪谷麗春祥

「中国湖南の旅友好使節団」

体験と交流の旅に参加して

守山・野洲支部 第十九期生

スポレク学科 山内三代子

団長以下総勢四十四名の使節団の一行は、九月十八日の昼過ぎ北京空港に降り立ちました。早速お決まりの市内観光へ、故宮・天安門広場・天壇公園・翌日は万里の長城・頤和園見学、夜は京劇鑑賞と矢継ぎ早に予定をこなし、翌西安に飛んで、兵馬俑・華清池と余りの強行軍に、四日目は予定を少し変更して大雁塔に上ったのみで長沙へ行きました。

長沙市着後、ホテルの貴賓室にて湖南省の副省長及び、滋賀県国際協会長の大久保団長の挨拶と記念品交換があり、表敬訪問を終えました。

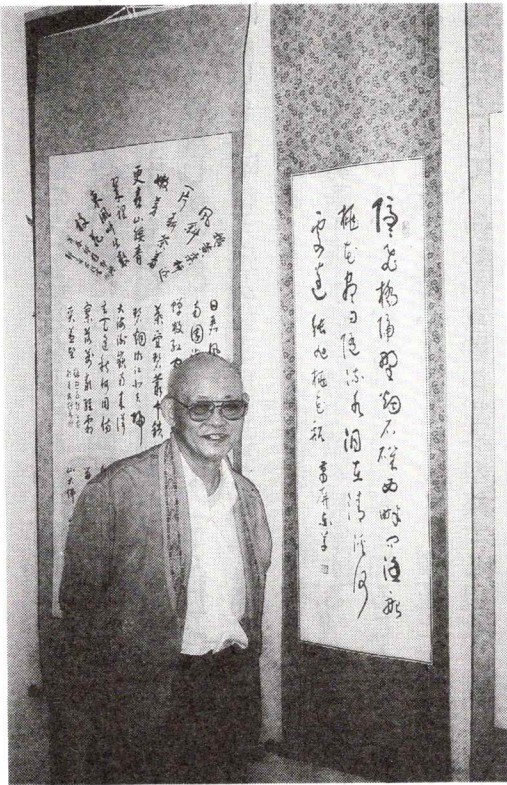
翌日の二十二日は一般家庭との交流ということで、望月湖団地を五名づつの班に別れて訪問しました。私達三班の文芸二十期の奥嶋さんが、おみやげとして自筆の書を差し上げたところ、訪問先のご主人蕭屏東さんは、偶然にも書家でしたので、大層喜ばれ、五人全員に自筆の書をください、私達も思いがけぬ嬉しいおみやげが出来ました。

一般家庭と言っても相当な知識人の家庭と見受けられ、住居も持ち家で対一玲さんという六十九歳の奥様とお二

人での年金暮らしとのことでした。昼食をたっぷりと御馳走になり、果物の剥き方、進め方等、習慣の違いに驚いたり、関心したりの楽しい一時を過ごしました。

長沙市の真ん中に百貨店平和堂があり、幾日かの異国の旅で鳩のマークに郷愁を覚えたり、太極拳を習い、漢方薬の講習会の後、薬膳料理ありと、盛り沢山の予定を終え、湖南省博物館では、馬王堆漢墓から出土した約二千年前のいまなお肌に弾力の残ると聞く軼候夫人のミイラには、思わず息を呑みました。

又、湖南師範大学日本語学科を尋ね、学生の真面目な態度や日本語が堪能なことに感心しました。全員で「琵琶湖周航の歌」を合唱したり、レイ大OBが主になって学生と



一緒に「北国の春」の曲で、レクダンスを披露しました。サヨナラパーティーには、蕭さんご夫妻も出席され、手を取り合い再会を願ひあつて別れを惜しみました。

翌日は上海市内を観光して、ホテルに一泊し、二十六日の夜八泊九日の長旅を一人の落伍者もなく、団員一同無事に帰国することが出来ました。

日本人のルーツ中国を尋ねて、やさしい表情の対一玲さんが忘れ難く、機会をみつけ再度の訪中を願っています。百聞は一見に如かずとか、折りにふれ懐かしい思い出に浸っているこの頃です。

垂水頓宮跡と

土山本陣をたずねて

甲賀支部 第十七期生

文芸学科 谷北嘉一郎

残暑厳しい九月二日、甲賀支部の一日研修会が土山町を会場に開催された。支部では、毎年各町持廻りで実施している。担当町の理事は、研修内容や日程を計画作成して、支部理事会に報告承認を得て実施する。

本年度は、土山町の茶畑、伊勢斎王垂水頓宮跡史跡、土山宿並に本陣、歴史民俗資料館を見学し、担当行政職員や学芸員の説明を受ける。

県内生産量の六〇余%を占める近江土山茶、その茶畑を見学する。布引山麓に広がる茶園は自然の庭先のように美しかった。中でも昭和四十年代開拓パイロット事業で墾された一望六七ヘクタールの入念に育てられている園はすばらしく、昭和天皇が行幸なされた御立台にたつと一人感慨深いものがあつた。

続いて伊勢齋王垂水頓宮跡史蹟を見学する。垂水頓宮の歴史を知るには、先ず伊勢神宮の起源を知ることが大事であるが、今は齋王を中心に記しておく。齋王とは、天皇の御名代として、伊勢神宮御神霊を奉祭する皇女・女王のことで、天皇が代わられる度毎に卜定により選ばれた未婚の女性のことである。都が平安京（京都）へ遷された後、第五十八代光孝天皇の仁和二年（八八六年）から、齋王は京都をお発ちになり、近江の國府勢多の頓宮で一泊、次に甲賀の頓宮（現在の甲西町あたり）へ、更にここ垂水の頓宮に一泊され、鈴鹿の山を越え伊勢の方へと群行の形で伊勢の齋宮へと行かれたのである。つまり、頓宮とは、齋王群行が一泊された仮の宮、にわか宮殿のことで一泊された後は解体され、次の天皇が即位なされるとその度毎に造営された宮殿である。

この垂水頓宮は、仁和二年から龜山天皇の文永元年（一二六四年）までの三百七十八年間、その間三十一名の齋王が一泊されている。その後は南北朝時代の混乱の為廃止さ

れている。つまり、齋王制度が廃止されてから七百三十五年の間この地が頓宮跡として保存されてきたのである。

垂水頓宮は、文部省の史跡の指定を受けている場所で、現在までに確認されている頓宮跡はここだけである。往古をしのばせるものは、四方を囲われた土手の跡と、古井戸の跡だけであるが、この地を史蹟として顕彰するため、石碑や伊勢神宮遙拝殿が建立されている。

私達は、続いて東海道五十三次、四十九番目の宿場土山宿の町並を見学する。古い格子戸、白壁の土蔵、旅籠の風情、新しく建てられた家屋も多くはこれらを取り入れる配慮、思わず私達の心をなごませてくれる。

本陣とは、江戸時代、街道宿駅において、参勤交代の大名、その他の貴人（勅使・宮門跡・公卿・幕吏など）が宿泊したところで、一般の旅籠とは区別され、概して山越・渡河・海渡・追分などの交通の要衝に多く設けられる傾向があり、ほかの旅籠に比べるとその規模は广大で多くの座敷・土間を有し、いかめしい門構えや広い玄関・書院造りの上段の間、美しい庭園などが特徴的である。土山本陣は、現代でも旧街道に面し、ほとんど旧時の遺構をとどめており、特に玄関、大広間、上段の間などは当時のまま残されており、また、宿帳や関札、工芸品など貴重な資料を数多く保存されている。奥様の説明によると、東海道五十三次四十九番目の宿場、峠越えの難所として有名な鈴鹿峠

のふもとに広がる土山宿のほぼ中央に位置し、寛永十一年（一六三四年）三代將軍徳川家光の上洛に際して設けられ、初代土山喜左衛門が本陣役に任命された以降明治三年（一八七〇）、に至るまで代々これをつとめられた。明治元年（一八六八年）九月、明治天皇第一回天長節は、ここでお迎えになられているとのことである。

土山の街道の北部、丘陵を開いた文化ゾーンには、文化ホール、民族資料館、図書館、森林センター、お祭広場、遊園地等が設置されていた。私達は、そのうちの資料館を見学、町の歴史民族の常設展示の外に焼物の個展が特別展示されていた。館内で学芸員から伊勢斎王群行の説明を受け半日ではあったが研修を終え懇親会場国民宿舎かもしか荘に向った。（一部垂水頓宮史蹟保存会著より引用）

枠を外す

甲賀支部 第十八期生

文芸学科 鈴木 重隆

枠は普通、ものの周りを囲む木とか、板など、又印刷物の四方を囲む線。めがねのフレーム。決められた範囲、制約等々であり、それ以外を枠外といい、決められた範囲の外のことである。

人はそれぞれの意志をもち、意見を述べる事が出来る

人間という動物である。他の動物は言葉も文字もないが、同種族集団では一つの規律に従って生きている。人間はそれぞれが勝手気儘にしては混乱するので、規制・制約を作り、人が生きてゆく為の最低限の取決めと解釈します。

規制—混乱しないように制限する。

制約—条件をつけて活動をおさえる。

子ども達の書道をみせてもらうと半紙一ぱいに一文字又は二文字が書かれ、自分の名前はその隙間に書かれている。長い間このことに疑問を抱いていたが「書」をやっている人に出合っその話をすると、曰く紙から字がはみ出していると云う考えでなく、伸び伸びと紙の制限にこだわらず自由に書かれている。と云うそうである。納得はいかないが反論の資料の持ち合わせがない。半紙で小さいのなら半切で書かせばいいではないか？が精一ぱいの思惑である。

目を転じて駐車場は概ね白線で枠が入れている。又混乱しないように進行方向に矢印がしてある。一つの枠内に入るべきだと思いが、跨いでいる車、白線を踏み込んでいる車、枠外の駐車、矢印とは反対方向に進む車等々は半紙から食み出して書く、伸び伸びとした自由の発想に通ずるものであろうか？

規制、制約で駐車場の白枠、矢印がそれであるはずが、自由の履き違い、そんなことはどうでもよい自分の車が停

められればよいと思っっている人が多くなってきた。迷惑なことであるが、修正するべき「って」がない。公道で渋滞となり、右の道が空いているから、と走る車はまだない。公道と私有地で違っている。

半紙から食み出す字を書かせて自由奔放であると自由の履き違い教育をしているかに思う。勿論この書道家は紙からはみ出した字は書かないでしょう。読みづらい自己流の字は書くかも知れないが、決った紙半切、全紙に……。軸にならないから。

最後の挑戦

甲賀支部 第十八期生

園芸学科 奥村

喬

九月の末、役員さんが「あんたにこれ書いてほしんや“うん”と言うまで帰らん」と言うて押しつけられた。ほんとうのところ、この原稿依頼されて心が重い毎日、いつの間にか締切りが近づいた。早よう書かなあかん何を書こうか一向にまとまらない。日が迫ってくる苦しまぎれの末に折角園芸学科に席を置いたので植物のことにしようとした。でも筆が鉛を引きずっているように重い、遅々としてすべらない、しようがない数多い趣味の中で今没頭している菊作りにしよう、これを書こう、よしこれに決め

た、ここまでずい分時間がかかったぞ。

一概に菊と言っても多種多様である。今はすっかり陰をひそめた山里にひっそりと咲く一輪の野菊から豪華けんらんの菊花展競いあう大輪菊、梟崖菊、文化の季節には無くてはならないイベントである。

私は菊に惹かれ「木付の金菊」にみせられ作り初めてもう七年位になる。木付金菊は延べ二年間と言う長期間を必要とするので余計楽しみが深く味わいがあるのではないか。

前年の初夏に挿木をしてその秋に「ずんどう」に植えかえ冬期から翌年の春先にかけて根の伸長充実をうながす。五月になってずんどうから取り出してていねいに土をふるい木につける。もちろん株元から地際まで二十〜四十センチの根上りにする。大輪と大きく違うのは枝づくりが生命であり定義の通り枝を



出さねばならない、秋の完成を頭に描き細い管理をする。

この盆菊づくりのもう一つの楽しみは木の収集である。山で枯木の根っこを掘り、掘り上げた株をアッチを向けコッチを向けてこれを鉢に置き菊を植えた時の姿を想像するのがこれ又楽しいものである。

自然観を表す一つの美の世界を追求し、行く秋のほんの一こまを潤いのあるものにする為に。

二 水 会

甲賀支部 第十九期生

文芸学科 黄瀬 毅一

平成十年九月十七日、米原の県立文化産業交流会館でレイカディア大学の卒業式をしてから、早くも一年。

この一年をふりかえって、どんなことをしてきたか。どんなことが心に残っているか。つれづれなるままに書いてみようと思う。そして八十五才になろうとしている今、残る人生を如何に生くべきかを考えるよすがを尋ねてみたいと思う。

わたしは、レ大在学中、文芸学科を選択履修した。入学したときは、二十八人。そして卒業（十・九・十七）後も俳句で寄ろうという。仲間が中川いさを先生のもとに二十一人。九月二十五日から、勉強会をすることになった。

場所は園城寺町の大津市伝統芸能会館。例会は毎月一回、第二水曜日に開催することを原則として合意。会の名称は二水会とすることにして発足したのである。

わたしは、マイカーで、信楽の自宅から会場まで、大戸川に沿って下り、瀬田の唐橋を渡り、湖岸道路、一六一号線を経て、疎水で左折、会場に達する。この間、唐橋まで半時間、唐橋から二十分のコースである。

途中、大津市の大鳥居という部落がダム建設のため、田上に部落が移転してさびしくなったが、このごろは第二名神の工事が始まって事務所ができ、様子が一変した。

水没のさだめ白々 枯尾花

すすきの穂 風に梳かれて なびきけり

続かなかんと懸念した道中を、緊張しながらも、高齢者マークを車体につけて、無事一年を経過した。これは、ひとえに中川先生の名講義と、仲間たちの友情にひかれてのお陰とありがたく、心から感謝している。

投句はいつも中川先生の兼題に頭をなやませながら、苦吟難産の連続である。

恥ずかしながら、数句を挙げて、この章を終る。

霜柱 踏んで傘寿の半ばゆく

志立てて拝むや初日の出

雪の果て、空に浮べる比良の嶺

店内はピンク一色 雛の曲

一瞬は息とめて見る那智の滝

一山を揺がせて鳴くほととぎす

合羽着て滝の中航くナイヤガラ

まなかいにたちくる父母や墓洗う

かがり火も消えてキャンプの星月夜

報恩のその日その日や彼岸花

ちなみに、どうしてるかとよく問われるので、同窓会の諸賢のお智慧をお借りしたいことばかりですが、関係している役職は次の通りである。

麦秋会会長（県小学校長会、中学校長会の役員OB会）

県退職公務員連盟相談役、甲賀郡支部長

町ゲートボール連盟会長

紫香楽宮陞保存会会長

日雲神社太鼓踊保存会会長

「一陽を照らす」と「あるがままに」をモットーに共に生きていきたい心境である。御指導を切にお願いして筆をおく。

コンピュータと私

近江八幡支部 第八期生

文芸学科 牧田 登茂

私の住む近所の馬淵小学校にて、地域に開かれた小学校「開放講座」「コンピュータ教室」が開催される様になり、私も生来の物好きなものですから昨年も参加させて頂きました。

「パソコンに触れて使ってみると言う。」初心者向けのものですから、パソコンを習ったとは到底言えません。

小学校の先生方が貴重な時間を割いて教えてくださるので申し訳ないと思いましたが、とにかくこんなに面白い物はないと思う位に感激いたしました。六十歳の手習い所か、米寿を迎えることで、恥知らずと思いつつお友達と参加しました。一週に一回、二時間程、五回、教えて頂きます。二十三年前アメリカ在中の娘宅へいき、ワープロを一寸打ってみて夢中になり、当時小学生だった孫に教えて貰ったのが始まりでした。

現在コンピューターに触れ、簡単な絵まで描けて、ほんとうに嬉しくなりました。新年に又娘の家へいった時、孫達とゲーム遊びを習い時間の経つのを忘れる程で「パソコンに、はまった。」とひやかされる始末でした。さすがに高価な物なので買っていませんが、非常な興味を持



たせて頂く、当時の学校の先生方、孫達との交流に感謝しつつ永生きてきてよかったと思っています。生涯勉強だと思ひ、ワープロからコンピュータへと小学生ながら結構扱える此頃の子ども達は幸せだと思います。

自分には手も出せない無理なものと諦めないで、地域に開かれた「開放講座に感謝」して参加する勇氣を持ちたいと思ひ、もう少し永生きていたいものです。

祝福の言葉数数身にあまる米寿の栄にみち足りていし前向きに一步すすみて晴れ晴れと広がる空に幸せ告げん

戦争体験者として

これだけは語っておきたい

近江八幡支部 第十期生

生活学科 富田 政尾

「明日は日本へ帰れる」「明日こそ日本の土が踏める」私はこの言葉を敗戦後一年五ヶ月、毎日毎日言い続け、必死で引き揚げ五十余年過ぎました。敗戦当時私は満州の東京城の日本難民収容所におりました。零下二十度、窓ガラスは全部なく、医者も、薬も、食物も、着る物も、何も無い収容所では毎日毎日子どもと老人が寒さと栄養失調で亡くなりました。私の長女も生後十一ヶ月でこの世を去りました。収容所は元関東軍の空兵舎で飛行場はあつという

間にお墓に変わりました。私は引き揚げる前に一度埋葬した長女を掘り出して一緒にいた人の子どもさんと共に私達の手で火葬にして小さなお骨を持って帰って来ました。外地での敗戦は文章や言葉では表現できない悲惨な事実が多いのです。私は戦争体験者として絶対言いたいことはたくさんありますが、その中で特に語っておきたいことは第一に戦争はどんな理由があっても起こしてはいけないことです。戦争は人の命は尊いとか、命は一つ、とかは通りません。相手を一人でも多く殺し傷つけて倒した方が勝です。戦争の原因はいろいろあると思ひますが話し合ひで解決すべきだと強く思ひます。第二に戦争は勝つても負けても多くの犠牲者がおられます。終戦記念日の一日、私は五十四年前を思ひ出します。悲しい日です。この事を忘れないで戦争の惨めさを知らない若い人達に語り続けることが大切だと思います。第三に終戦後日本は五十余年、戦争のない年月を過ぎて来ました。日本は平和です。戦争がないのは一番平和です。戦後日本はめざましい復興を遂げ国民は安心して暮らしています。戦後物はありませんでしたが人の心はあつたのでしよう。皆の努力と苦勞の賜です。今でも世界のあちこちでは争いが絶えず、私達が経験した悲しい目に会っている人々が大勢います。世界中が平和にならなければ真の世界平和にはなりません。私はこの三つの事実を忘れずにしっかり語っておきたいのです。

歴史考（古代史の探究）

近江八幡支部 第十一期生

園芸学科 佐々木尚一

私は少年の頃、外でやんちゃをしているよりも、家で本を読んでいるほうが多かったように思う。なげなしの小遣いを無理をして「少年倶楽部」を愛読して、付録の型紙で模型飛行機や、戦艦を作って楽しんだり、世界文学全集を借りてきて、お手伝いをせず叱られながら夢中で読んでいた、遠い昔の懐かしい記憶が思い出として残っている。

学生時代から社会人、引き続き読んで軍隊生活と軍国化の進展と共に戦時中のはのんびりと読書する機会が少なくて、戦後の混乱期から高度の繁栄期を迎えるまで、企業人として必死に頑張り、やっと七十歳を迎えて仕事人間から解放されて、余暇に先ず地元歴史について勉強しようと健気な発想をして、郷土史を読んだり、近郷の史跡を探索する等、「ふるさと」発見に興味を覚えるようになった。丁度その頃、老人大学の募集を知って入学の機会を得て、二年間の生涯学習の中で必修講座の郷土史の課題については、特に熱心に聴講した記憶があり、更に研修を意欲的に深める動機にもなった。

卒業を機会に、当市の観光事業の一環として「ふるさと観光塾」が遠来の観光客に楽しんで頂く事を目的に開講さ

れ、早速趣味を活用する好機とばかり受講することにした。お陰様で郷土の史実や由緒を再認識する機会に恵まれ、「観光名所八幡」のPRに観光ガイドが大いに役立つ事になった。私達の活躍がマスコミにも認められ、年々観光客の増加と共に、テレビの出演や業界紙の取材を受けるなど、観光ガイドの顔としてすっかりお馴染みになって、これも郷土史に興味を持ったご縁かと大いに感謝をしている。

老人大学の卒業を契機に、膳所の社会保険センターで生涯学習講座「近江の歴史」が開講されているのを聞いて早速仲間に入れて貰って拝聴することにした。県下の著名な各地の史跡（三か月間同地区）を毎週土曜日二時間の講座を五年間聴講（その間一回は現地研修）した。当初八幡周辺の郷土史から県下の史実を勉強する事になり、お陰様で「ふるさと」の再発見に益々興味を深め、頭の体操に大いに役立つ喜んでいる。

この講座の学習については、「滋賀県の歴史散歩」上下版を教材にされて、現地探訪にはこれをガイドブックにして、時折解説を読んで重宝に利用している。

なお又、昭和五十八年の頃から滋賀県文化振興事業団の主管による「湖国と文化」を毎月購読を続けているが、毎号県下の色々な史実、事例についての特集があり、歴史を知ろうとする上での生き字引として、時折バックナンバーで見直して愛読している。

私の関係するグループの方達にもこの本を勧めて郷土の歴史に馴染んで貰っている。

廻で、「近江の歴史」の講座もマンネリ化したので、気分転換もあって京都まで足を延ばして、更に歴史の勉強に年甲斐もなく挑戦することにした。

NHK文化センター(京都駅前)で「歴史を歩く」を京洛の風土記を史実として解説される講座を講師の滋賀県立大学の村井先生から学習する事になった。月二回の好評の人気講座で何時も満席の盛況が続いて、時折現地研修もあり楽しく見聞を広めた。

この講座も先生のご都合で平成九年九月で修了して、十月から「歴史の現場に立つ」講座名に変更になり、講師は橘女子大学の猪熊先生で奈良地区を中心として、古代史の現場を舞台に毎月一回の研修が待ち遠しく、平城京の史跡の探訪が続けられている。

猪熊先生は飛鳥地区の古墳群を始め、藤原宮、平城宮の発掘現場の史跡に造詣が深く毎回現場で自分の庭先の如く解説され、奈良朝時代の史実のロマンに感激している。

また、平成八年六月から京都の朝日カルチャーセンターの特別公開講座「古代史」を受講しており、毎土曜日十三時から二時間、毎回講師の先生達が交代されて「ライバルたちの世界」をテーマに登場する主人公の史実を講演され、毎回楽しく生き甲斐として受講を続けているが、この講座

と並行して猪熊先生の現地研修で「百聞は一見に如かず」の譬えで、歴史を学ぶ楽しみの一つには現地を訪れた時の感激は想像以上であった。

特に飛鳥、白鳳、天平の奈良時代約二百年間に、律令国家形成の変革、東アジアでの中国、朝鮮半島の国際情勢、仏教文化の開化、皇位継承の争奪と女帝の擁立、藤原氏の台頭等々の激動の歴史の物語を藤原、平城京の広大な遺跡に立つ時、天平びとの遠い昔のロマンが彷彿として蘇って何時も感慨に浸りながら、古代史の醍醐味を満喫している。このように生来からの好きな学習として継続出来るのも、先ず健康であること、家族の理解と協力があるお陰と感謝をしている。遠い大昔の古代史のお話しには夢があって何回聞いても右から左にすぐ忘れてしまいながら、頭の体操やと思つて納得の上喜んで勉強に頑張っている。同好の士があれば喜んで仲間歓迎したいものである。



健康に生きる

近江八幡支部 第十五期生

文芸学科 岩崎 進

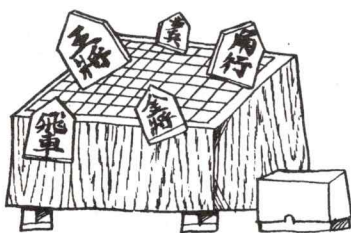
私は、現在県希望ヶ丘文化公園にバイトとして勤務しております。仕事の内容は、来園されるお客さまの不明な点についての相談と、公園駐車場の管理です。勤務場所の周囲は、緑の樹木、又、広々とした芝生に囲まれた環境、空気の旨さを実感できる毎日が森林浴をしている様な所です。

年を数える毎に、人間はどうしても孤独を感じるようになります。孤独感をなくするためにも、私は他府県から来園される我々と同年輩の高齢者の方、又、幼稚園児の可愛い子どもさん等、あらゆるお客さまと、できる限り対話するように心掛けております。お客さまが話されなくても、此方から進んで話かけると対話が生まれます。これも健康を保つ一つの大きな要素だと考えます。又、健康の為に太陽の光を全身に受け、体を動かす事が大切だと思います。バイトの合間の日には、ゲートボール、グランドゴルフ等、シルバークエストを下手乍ら楽しんでおります。

他に、自宅の近くに、多少の農地を借用し、季節の野菜作りをしております。猫のひたい程の面積ですが、野菜作りも楽しいものです。はっきり言って、スーパーや、朝市

等で買ったほうが安いかも知れませんが、野菜が出来た時の喜びは又格別です。何か自分がやっている事ばかり、書いたようですが、要は健康であるためには、人との対話と、年齢相応の運動等が大切な事ではないかと思えます。

「死ぬことなんか怖くない、死は当然生まれた以上、遅かれ、早かれ、皆遭遇することであり怖くない」と覚悟はしていても不安がついてまわるのが現実です。若い時は後のことなんか、全く考えたことなんかなかったと思いますが、それが現実となって、あわてて設計しているのが現在です。どうすれば健康で生きられ、子ども夫婦、家族に迷惑をかけずに老後を過ごせるか、年をとることと比例して、孤独を感じるようになることは誰もが経験することです。今日元気でいても、明日の生命は誰も補償できません。要は一日一日を健康で、寝たきりにならないように、ボケないように、何か興味を持ち、自分でできることは自分で進んでやるようにして、楽しい毎日を過ごすよう心掛けたいものです。



一日一日を大切に

中部支部 第十四期生

園芸学科 岡本 幹雄

去る九月二十六日、七日園芸学科OB会恒例の親睦旅行に参加し、伊豆修善寺の宿で久し振りに盃を交わす事が出来た。最年長（八十六才）の会員からの挨拶で、平成三年県内の各地から集まって、入学して初めて知り合った仲間と早や八年、お互いの気心もうちとけ、最年長の私が皆さんと同じ行動が出来、色々な行事に参加できる喜びをつくづく申された。同席の私達同じ思いで感慨深い一ときだった。

顧みて、私永い間の勤めで之と云う趣味をもつ事も出来ずに退職し、さてこれから何をやるかと思っていた時先輩からすすめられ、その年老人大学に入学出来た幸せ者。

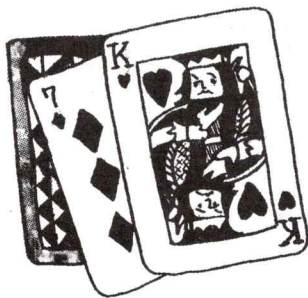
在学中の実習で得た色々な盆栽が、我が家の庭に並ぶ様になり、一鉢一鉢と数も増え、その中には何とか見られるような鉢も幾つか育って来たが、多くは唯世話を続けているだけという状態である。

そんな盆栽作りの中で、花木の実生育苗、挿木、接木等が順調に出来るようになり、石楠花、藤をはじめ幾種類かの花木が増殖出来、近隣の愛好の方々に差上げ育て方のアドバイスをするのが楽しみの一つとなった。

然し、年と共に足腰が弱り、重い鉢の移動がままならず息子の手を借りる始末、年齢に合わせて徐々に減らしてゆく事の大切さを漸く自覚するようになった。

又、ふとした事から、知人に奨められつついつい手習いはじめる事になった。昔から「六十の手習い」と諺にもあるように、七十過ぎてからでは尚更のこと、家族に笑われながらも何とか五年も続ける事ができ、月に二〜三回の学習に参加し、指導を受けるが自分の腕や指先が何故思う様に動かないのか、まどろかしいことも屢々ではあるが、少しでも脳の老化を防ぎボケ防止の一助にもと自分で慰めている次第、いつまで続けられるか心細い。

農作業、盆栽いじり、そして手習いと欲ばり爺さん「二兎を追う者は一兎を得ず。」と云う事も知りつつ何れも止めるに止められず、多忙な日々を過ごしているが、何より有難い事に、健康に恵まれ充実した日暮らしの出来る事は、神仏の加護のお陰と周囲の方々の支えをいただき感謝の気持ち忘れず、今日一日を大切に、大切にと念じつつ。



老大の思い出

中部支部 第十五期生

生活学科 山本 慶子

私達がレイカディア大学を卒業してから、もう五年になります。入学当時は旧老人大学で、学舎はなく、滋賀会館、大津商工会議所、大津勤労福祉会館と教室を転々とし、今日に行く先間違っていないかなあ、と考えなければならぬ状況でした。二年目は設備の充実した現校舎での快適な学生生活を送ることができました。

私達生活学科は女性ばかりでみんなとても仲が良く卒業してからも年二回は出逢える機会をつくり親睦と交流を図っています。お陰様で今では誰一人、大病する人もなく元気に揃っているのが何よりと喜んでいきます。

現在私は健康維持のため、短歌、俳句、謡曲、コーラス、ゲートボール等のサークルに入り新しい出会いもたくさんあってそれぞれを大切に充実した日々を送りたいと願っています。

俳句

音がして 流れは見えぬ 草の花
秋草に 足投げ出して 写生の子
いわし雲 バスは岬を 幾曲がり

どこまでも 一人の道の 夕月夜
松手入 済みし匂ひと なりにけり

短歌

鳥がゆく 希望が丘の青年の
塔の高みに夕日かがやく
野の仏 小菊に顔をさらさらと
うたせて清し だれもこぬ道
語るべき ことばのなきにゆく秋は
心の隅に鈴鳴らし

さば雲の 流れのはてに近江富士
黒きかげりが秋を濃くする

雑感

中部支部 第十八期生

園芸学科 藤野 重昭

レイ大を卒業して早や三年、あつと云う間でした。私は町のシルバー人材センターに籍を置き、公民館の夜の留守居に勤務しています。二人で一週間おきの為、月に十日程です。園芸学科を専攻したので、剪定の仕事に入る様勧められました。身体的理由で、今の仕事をさせて頂いています。私が現役の頃の計算では、八%の利息で小遣いは十

分とソロバンの上では、出ていたのですが、バブルとやら
がはじけたとかで、今では利息どころか預貯金するのに、
手数料がいるようになることしやかにささやかかれて
いるこの頃です。私が小学校に入学した頃は人生凡そ五十
年と聞いた記憶があります。六十年過ぎた今八十年の時代
がきました。年老いて尚健康で過ごしたい私のみならず万
人の願いであると思います。在学中岐阜薬科大学で講義を
受けました。薬草では、今もスギナを陰干しして煎じて飲
んでいます。又、ニンニクをレンジでチンした後焼酎に漬
けたものを食しています。巷では来年から始まる介護保険
の話の輪があちこちにできてます。六十五才をこえた人が
二千万人の現在、健康で活躍出来たら、本当に幸福とい
えるのではないのでしょうか。私は八月末アメリカに行って
来ました。西本願寺開教百年記念行事参加で、団体行動故
あちこち回るのではなく忙しい旅でした。サンフランシス
コのツインヒルやゴールデンゲートブリッジを見学する
事は出来ました。ロスアンゼルスでも、別院で勤行の後リ
トル東京や、ハリウッドへと楽しい事も有りました。私が
この旅の中で感心したのは道路幅の広さや車の多さでは
なく人々のマナーの良さでした。この国は多民族国家で、
実に七十五ヶ国の人々が永住権を持ち暮らしているとの事、
その中で自然に自責の慣習が身についたのだ。とはガイド
氏の説明でした。二五マイルオンリーと立て札が有ればそ

の通りに又交差点では、両方一時停止の時、互い違いに交
差点に入ります。日本では考えられない事です。交差点と
云っても片方八車線となれば車でも、通り過ぎるのに何秒
か必要となるのだが。この国では前が赤でも安全を確認の
後右折OKとの事、又坂道の多い所では右側に止めた車の
前輪を左一杯にきるんだそう、そうしていないと罰金を
取られるらしい。色々な事を見て聞いて帰ってきました。
私達はあり余る金と物の中で暮らし幸福を感じられなく
なっていると云われています。異国の地で思った事ですが、
自由の国米国でさえこれほど厳しく自身を律している事
を再発見し、自由の意味をとり違えた日本では今大変な事
になっている、政治は混迷を極め、経済はいきづまり自然
環境が破壊された現実を二十一世紀に向け何としても立
て直し、次代を担う子ども達に胸をはってバトタッチが
出来る様にしなければならぬのだが。



生まれた時は何も知らない

湖東支部 第十一期生

園芸学科 西堀 嘉一

今日の社会は異口同音何人も変化変転の危惧大である事を認めているであろう「諺」に「文明文化が進めば事故災害も之に比例すると教えている正に其の通りである。然し文明文化の進展も方向如何では今後の人間社会の善悪を左右すると言っても過言では無い」「箸を持つ方は右、茶碗を持つ方は左」と幼なくして親から兄から教えられたお陰と社会環境とに相俟って、吾も八十路の息災を迎えているのであり人生は一人で生きられるものではない事を深く感銘している今日此の頃である。

でも一步現実の社会に耳を転じて見れば年一年、否日一日と危惧不安が募り安心の度は薄くなり親は子へ、子は孫へと聞きし世相は消えてゆくばかりで恐ろしい事でもあらんとさえ思われる。

戦後半世紀「親の教えと茄子の花は言々」と言った通り教えの道は親であり師であり兄弟である事は間違いで無いと確信して生きているが今の世はどうであろうか文明文化の進展は其の方向が狂ってはいないだろうか親兄妹が教える前にボタン「スイッチ」一つで善悪の解らない幼児までも世の総てを教えている之等の人は大人であり他人

であり責任を感じない人である。

私は一言申し上げたい特に今日のマスコミ報道関係には自由の社会故、報道の無制限の前に国民の益か不益か、要か不要かをよく分析判断して報道の自由は其の次にして頂きたい善悪判断のない幼児に至っては尚更であり見る事に依り悪の手法も覚える一つでもあるからであります。

ねんりんピックに参加して

湖東支部 第十六期生

スポレク学科 横山 芳子

体育の日に因んで、毎年、高齢者を中心とした世代交流のスポーツ、文化等のイベントとして、ねんりんピックが催されています。今年は、十二回目となり、隣の県、福井県で、「ねんりんのパワーを生かす新時代」をテーマにして、県全域で、「ねんりんピック99 福井」が、十月九日に開催されました。私はウォークラリーの種目に参加し、ウォークラリーは勝山市で行われたのです。交流会では、小、中、高校生の民謡や、踊り、手作り芝居など、可愛い園児の振舞は、私たちの心を柔らげてくれます。高校生は、各チームのプラカードを持って、受け持ちチームの接待係なのです。因みに滋賀県は、「びわこチーム」でした、私

たちが座席に着くと、お茶、昼食の折は豚汁のご馳走になりました。その接待係は、どのチームも、男子の生徒さん、それも優しい眼差しで運んでもらったこと、又帰りの折りもバス乗り場迄送ってもらったのです。いや、高校生、私たちより背も高く、大きな学生さんの、優しい振る舞いは、私たちうれしかったです。よい思い出となりました。手を振って別れた折は、本当の友情を感じとった処です。多くの人達のお世話になった事、又一つのゲームに突進して歩いた有様が思い出される今日此の頃です。

自分の健康の証として、イベントに参加出来たことは幸せ者です。日頃、県歩け歩け協会に入って、毎月は無理ですが、都合のよい日は参加し、十二、三キロ程歩くのです。又県のスイミングセンターに通って居りますので、この度のウォークラリーも、何の抵抗もなく、参加させて頂いたのです。他の都道府県の人達のパワーは、本当に素晴らしいです。元氣そのもの、圧倒されました。歳の差など何のその、最高齢者、八十五才、八十才以上は五名も参加しておられ、同じように歩かれたのです。背筋もピンとして、又笑顔がとて好く、ステキでした、こちら迄もが、負けてたら駄目、頑張らなと勇気づけられます。

老いも、若きも、一緒になって共に笑い、共に語り合い、共に手拍子打って、素晴らしい秋空の下で、そして、不思議とお天気が好く、神様はお見通しなのでワ、と思われま

す。誰もが健康で、自分に合った趣味を見つけ出し、仲間をつくり、又仲間に入り、楽しい輪「和」を、つくっていきたいです。この度の、経験、体験出来たのも、廻りの人達のおかげと感謝しております。いつ迄も、ねんりんのパワーを持ちつづけられる事を、祈るばかりです。

「ひまわりの会」

ボランティアに参加して

湖東支部 第十九期生

生活学科 藤居 和子

卒業証書、紅白まんじゅうを手にし、友と再会を誓い早や一年が経ちました。九十八年六月より四期先輩の前民生委員の川並稔男さんを中心とした地域福祉の会「ひまわりの会」にボランティアとして参加しています。八十才以上の老人を第四火曜日に一時から集まって頂きます。脚の悪い方や風雨の日は男の方が車で送迎です。元小学校長、町教委保健婦、僧侶の方々のお話や幼稚園児の肩たたき、有志の大正琴を演奏し昔なつかしい歌を唱い又詩吟を吟じ紙芝居をしたり、終わりには手製のおやつでなごやかな楽しいひとときです。「次は何日やなあ。楽しみにしてるのや。」「〇日や又来てな。待ってるで。」と見送ります。敗戦の日本をここ迄豊かにしたのはお年寄達です。どうかこ

の事に誇りと自信を持って月一回の「ひまわりの会」に参加して下さる事を念じています。私達も五十才から七十才を越え老いとは何と楽しいものかを感じます。そこそこの何不自由ない生活、責任ある事から離れ、自由な時間は作れば一杯ある。好きな趣味にも挑戦出来、友達が増え、生き生き輝いておれば病気にもなりません。何年か後の人生で「素敵であった」と言える様過ぎたいものです。私達にとつて大切なものは「心」「心一つで自分も変わり周りも変わります。この事を心の奥に秘め、”ひまわり会”のボランティアとして励みます。レイカディア卒の皆さんのお健やかな老後をお祈り致します。

雑感 (卒業後の短信)

湖東支部 第二十期生

文芸学科 安澤 慶治

先月の中旬頃だと思うが、レイカディア大学の先輩でもあるKさんより何でも良いから投稿してくれるようにと原稿用紙を頂いた。卒業記念の紀要の書き上げに色々と文才の無い頭を痛めたばかりであったが断る訳にも行かずペンを執ることにした。今思えばレイカディア大学の二年間は本当に早く過ぎ去った様な気がしてならない。始めの頃は果たして自分に短歌がつくれるのか、毛筆でまともな

字が書けるのか半信半疑でもあったが、良き師に恵まれたお陰で少しは短歌は抒情を主流に真を詠うこと、書道は筆の運びや、速さが大切であることを指導して頂き自分なりに基本的には理解出来る様になったのではないかと感謝しているのが偽らざる心境である。現在、老人クラブの役員を任かされているが特に秋は福祉関係の行事も多く、晴耕雨読、悠々自適のライフスタイルには程遠く、自作自演の文芸自習も余りやっていないのが現状である。いづれ近き日に隣接町村の先輩、同窓の諸兄にお会い出来るのを楽しみにしつつ……。

(今回は近況報告まで)

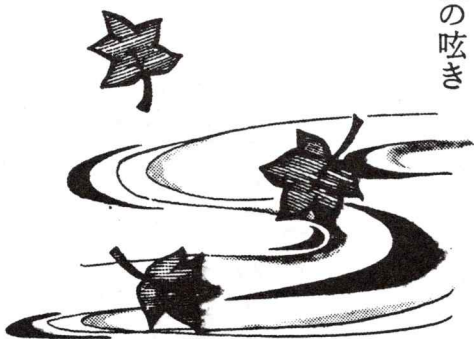
短歌二首

雑草の 茂るにまかせし

荒畑の 隅に野菊の ひそと咲きおり

夕暮に 木の実降る音 乾きいる

その微かなる 秋の呟き



運を天にまかせて

湖北支部 第十一期生

園芸学科 田辺

「神経にメスが少し触れただけで、下半身不随になった報告がある。」こんなことを聞かされていたので、手術をためらっていた。このことを知ってか知らないかは別にしても、脊骨にメスを入れると聞いて、足がしびれる、痛むといながら、手術をためらっている方の話を、幾人かに聞いている。いつ、どういう状態になったときに手術するかは、医者判断にまかせるしか、方法がないのではないか。こんな状態が数ヶ月続いた。

病名は「脊柱管狭窄症」。歩行も自由であったし、それほど痛みも感じなかった、ある朝突然に、左足が曲げられず、痛みが走って起きあがれなくなった。これは大変とすぐ医者に連絡し、手術を申し込んだ。

このようなことは、医者は先刻ご承知であったのか、早速入院の手続きをしてくれた。しかし、私のように軽症のうち手術を申し出た人は少ないようで、入院中は、起床が不自由なだけで、トイレも車椅子で自由に行けた。

しかし、入院してみると、同病の方がおられ、また後から一人入院してこられた。前者を仮にAさん、後者をCさんとしよう。A、Cさん共に重症患者である。Aさんは車

椅子でトイレに行けるが、歩行はまったく不可能である。Cさんは壁の手摺りにつかまって歩いていた。それでも時々転倒していた。

Aさんの手術は七月十一日（一九九八）、私は十六日と決められた。手術のための事前検査のことは省略しておく。

Aさんの手術当日、どんな気持ちですかと問いかけた。「運を天にまかせます。」と言葉を残して、Aさんは手術室に消えた。人生の終わりは考えないまでも、下半身不随になって、一生不自由な生活を送らねばならない身にならぬようにと願う気持ちは誰しも同じである。

しかし、術後の歩行訓練には大分苦勞していたようであるが、手術は成功した模様である。

Cさんは相当重症であったようで、後刻見舞いに行ったとき、術後、腰回りにギブスをはめられていたが、この方も、手術は成功した模様である。

軽いといっても脊骨をさわる手術である。私はAさんと同じ気持ちで手術室へ向かった。腰骨のあたりに注射を打たれ、口にマスクをはめられたまでは覚えていたが、あとのことはまったく分からない。田辺さんと呼ばれる声を聞いて目を覚ました時には、手術開始後すでに九時間が過ぎていた。

手術後は絶対安静、四日目になって、看護婦の手助けで、

やっと横向きにしてもらえた。

このとき運悪く、以前からの腸閉塞が併発し、内科治療を受けることになった。そのためか、脊中の縫合がうまく行かず、若干リハビリが遅れたが、その後の歩行訓練は順調に仕上がり、左足のしびれは若干残ってはいるものの、八月末日に退院した。

その後半年たって、ようやく医者の手を離れることができた。

最後になったが、担当医の腕と御助力に感謝する。

サロン講座を受講して

湖北支部 第十三期生
スポレク学科 中川志げ子

生涯学習の一環として「生きがいづくりサロン講座」が開校されることとなり二十三名の方と共に受講いたしました。その中で心に残った一端を書いてみました。

○命を大切に―心に信を、唇に歌を―

悲しみや淋しきで心が閉ざされている時に歌を口づさめばその悲しさや淋しさは和らぎ、嬉しきで心躍る時に歌を唄えば喜びは倍加して一入心が躍ります。

演歌は人生の応援歌!! 日に日に老い行く人生の歯止

めとなるよう、大いに歌を唄って暮らしましょう。音楽教師である講師の美しいテノールを聴きながら楽しい講座を終了しました。

○仏教の世界―禅との出会い―

二月二十二日厳寒の御堂で三十分間の座禅を組む。「無念無想」そのあと、駿河の国は富士の高嶺と白隠禅師と謳われた白隠禅師座禅和讃を唱和して、多田幸寺、住職より仏教と禅についての講話を聴きました。

釈尊は、生・老・病・死を「四苦」と言っておられますが、自分の意志で思うようになるものは一つもありません。人生を楽しく生きようと思ったなら「世の中は自分の思うようにはならないもの」と常に心がけていなければならぬ。いとこの訓えを聴かせて頂き、平素から不信心な私にとって心洗われる一日でした。

○歴史探訪―近江風土記の丘、歴史ゾーンの見学―

幻の名城安土城の天守閣が朱と金箔で再現され、目の覚めるような華やかさに唯ただ警嘆の声をあげるのをみて、安土桃山の美の極限を味わいました。広くヨーロッパにまで宣伝された名城はスペイン・セビリヤ万博に展示された天守も保存されています。

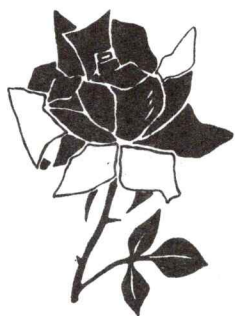
四百年前、安土に開校されたセミナーヨは西洋文化を伝

える窓口にもなり、オルガンによって西洋音楽が奏でられ信長もそれを聴いたと伝えられています。今、目の前で演奏されるパイプオルガンの荘厳な音色にしばし幽玄の世界に遊ぶ心地でした。博物考古館では弥生、古墳時代に思いを馳せ、栄華を極めた織田信長の人間像をみて戦国の昔を偲んでいました。史跡の多い近江に住んでいて、もっとも郷土の勉強をしなければと痛感した一日でした。

○長浜祭ーシヤギリー

伝統と文化に生きる曳山祭は長浜に生まれ、育った私にとって生涯忘れることのできない「故郷の音楽」です。先人が築きあげた貴重な遺産を長浜のシンボル文化として永く後世に伝えて貰いたいと思っています。

また、このような中味の濃い学習の機会があれば参加させて頂き、いつ迄も老いることなく「生涯学習」に心がけ大いに老春を謳歌していきたいと願っております。



ささやかな私の

ボランティア活動

高島支部 第十四期生

スポレク学科 志連紀恵子

老人大学（現レイカディア大学）を卒業して早くも六年が過ぎようとしています。卒業後、これといった芸も持ち合わせていない私ですが、たとえ僅かでも地域のお役に立ちますならばと思ひまして、老人クラブをはじめ幾つかの社会活動に参加し、おかげ様で楽しく充実した日々を過ごしています。

六年前に主人が、続いてその二年後には今度は私が、相次いで『ガン』の手術を受けました。主人は直腸ガンで私は盲腸ガン。二人ともおなかのみぞおちから下腹部にかけて約三十センチ切開し、ガン細胞をすっかり取り除いても、らいました。主人はおなかの横に人工肛門をつくるという、少し不便な後遺症が残りましたが、幸運にも二人共、表面的には誰も気付かないくらい健康を回復することが出来ました。

それからです。私達夫婦のボランティア活動・社会参加活動が増えたのは。ガンといえば直ちに死を連想していた私達でしたが、幸い早期発見であったことと、医療技術の進歩と適切な医師の処置により命拾いが出来たのです。

から、余った命は人様のために使わせてもらおうと意気込んだという次第でございます。

こうして増えた活動の中で、老大で学んだ成果を生かしている一々の事例をご紹介しますと、先ずその一つは町社会福祉協議会が運営するデイサービスのお手伝いです。これは不定期で月一〜二回ですが、私共の仕事はデイサービスにお出での方達に養護サービス（軽スポーツ）を提供することです。「皆さん今日は。お顔の色もよく、お元気そうで何よりですね。では今日も、おしゃべりしたり笑ったり、少し身体を動かしましょうね」と始めていきます。大部分の方は足腰、特に膝が悪く椅子掛けの状態ですが、歌いながら手足の運動、座ったままの簡単なダンスやゲームを楽しんでもらいます。時には輪投げやボール遊びなど軽スポーツもします。いわゆる福祉レクリエーションですから、おしゃべりしながらの約一時間を無理しないで遊んでいただきます。

二つめは、高齢者を対象としたクラブ活動の支援です。マキノ町の『かえでクラブ』と今津町の『いきいきクラブ』を、ボランティアとしてお世話していますが、かえでクラブは毎週水曜日、いきいきクラブは毎週火曜日、それぞれ午前中二時間、フォークダンスやレク・ダンスでいい汗を流しています。両クラブとも会員は五十名を越えており、『ねたきりと痴呆の予防、仲間づくりと健康づくり』を目

的に活動しています。これからの高齢社会を心身ともに健やかに、出来る限り介護保険のお世話にならなくていいようにと念じながら……。

老いのひとり言

高島支部 第十六期生

文芸学科 上野エミ子

長かった今年の猛暑も終り、朝夕の涼風に、ほっと一息入れております。

ちょっと一言、私の感じたままを、書いてみたいと思いい筆を取りました。日本中に品物が行き渡り過ぎて、物が有り余る今日この頃、若い人達は私の娘も含め、物に対する感謝の気持が無い様に思います。家が狭いのに新しい物を買って、古い物はまだまだ使えるのに、惜しげもなく処分するのが、当たり前になってきている様に思います。将来の事を思うと、悲しい気持ちになります。

これとは反対に、大切な言葉の足りなさです、私達の年齢では、とかく聞きもらす事が多く、特に低音が聞き取りにくく、聞き洩らす事が多く、良くわからぬまま、憤慨している始末でございます。若い人達は年寄りが納得するまで、充分に話してくれない様に思います。自分だけわかっている言葉で、短くちょっとだけ言うだけで、老人

には充分意志が通じない間に、結論を出してしまふ、その為には悲しい思いをする事が、多々あります。皆様方は如何でございますが、古びた機械でも、時々油を差し、上手に使ってもらえたら、きつとまだまだ役に立つ事もあると思ひます。地域でも家の中でも、役に立ちたいのです。言葉が足りないと言う事は、お互いにしこりが残ると思ひます。何事も充分話し合つて、言葉の足りなさを、なくして行きたいと思つております。

この年齢になつたからこそ、感じられる自然の美しさ、寒い間じつと耐えていた植物が、春の暖かさに、少しづつ蕾をふくらませる、あの可愛らしさあの愛らしさは、今まで忙しかった私には、感じられなかつた事です。ゆっくりの時間を持てる今だから、ひしひしと身に沁む喜びを味わつております。

貧しくとも、心豊かに健康に暮らせる嬉しさに日々感謝し二十一世紀に向い、歩んで行きたいと思つております。

亡き夫の酔えば歌いしかの歌は

若鷺の歌 予科練の歌

挺身隊たりしあの頃楽しみは

残業に貰う キャラメル三箇

おしる粉もあべ川餅も勝つまでは

我慢したりし 十六の春

繁栄と引きかえに我らが暮し

貴重なるもの 多々失しないし

歩み来し道振り向かず残り世を

せめて生くるべき心新たに

新たなる知識求めて学習に

余生をかけるわれに幸あれ

「国重要文化財」

若宮神社の大改修に寄せて

高島支部 第十八期生

文芸学科 伊香 善一（蒼水）

○ 輪中に生きる

安曇川の南流と北流に囲まれた輪中の邑、ここ北船木は戸数約二〇〇戸、昔から農業と漁業を生業とする小集落である。往古より何回となく大水や暴風雨に襲われ枕を高くして眠ることができない邑であつたことは区の古文書に記されている。先人たちは自然の脅威と闘いながら、鎮守の社、家屋や尊い人命を、共働と連帯感、団結の力で故里を護り続けてくれたのである。

○ 棟札発見から解体・保存修理へ

本殿の縁下に残された「明応六年七月上棟・佐々木能登守建立」（一四九七）の棟札が関係者の調査の結果、動か

ぬ証となって、国の重要文化財の指定を受けたのである。

本殿は三間社流造りといわれ、室町後期に創建された貴重な神社建造物といわれている。この本殿が重要文化財の指定を受けたことは、区はもとより安曇川町にとっても大きな悦びである。

この度の解体、復元の大事業は区民の総意と、文化庁、滋賀県、安曇川町の財政援助のもとに、平成九年四月に着工され三ヶ年の歳月を費やし、平成十一年九月、見事に完成されたのである。

宮匠の技と素晴らしく甍った本殿は荘厳で、こけら葺きの屋根は周辺の緑樹に映えて一段と奇麗である。

献詠句　こけら葺き反りに隅なき望の月　蒼水

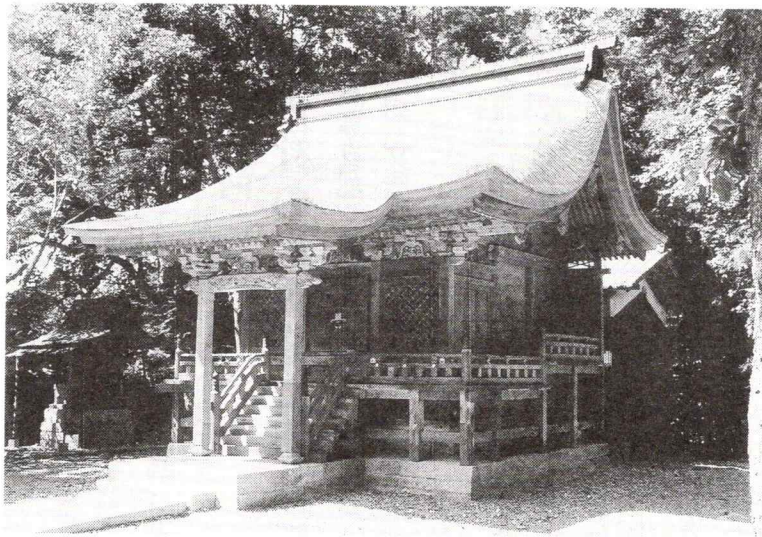
復元成った本殿と宝蔵に収納されている「大般若経」六百巻と「区有古文書」は、わが集落の貴重な文化遺産であり「お宝」と云っても過言ではない。

○敬神の念を新たに

今回の大事業を節目として、私たち自身の心の修復と、輪中に生きた先人たちの護り残した遺産を後世に伝えると共に、友愛、団結、郷内繁栄と平和を願う敬神の輪を、更に広げていかなければならないと念ずるものである。

献詠歌　蒼水　二首

室町期に復元せしめし墓股舟木気質を永久に伝えん
田の神と魚師の神よと輪中びと崇め祀らん若宮権現



復元なった若宮神社

二十期生（新入会員）代表

園芸学科の

今後の取り組みについて

草津校 甲賀支部

園芸学科 芦田 秀明

爽涼の候、滋賀県レイカディア大学同窓会の諸先輩にはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

今度、私達は、二年間楽しく学び、新しい知識と技能を身につけ、新社会人として再出発することができました。

これは偏に、諸先輩のご支援の賜と厚くお礼を申し上げます。これを機に、皆様の輪に加えていただき、ご指導を得て、自己研鑽に励み、微力ながら本会発展に努める所存です。入会にあたりまして、二十期生、園芸科の今後の活動計画の一端を報告させていただきます、ごあいさつとします。

文芸科講師の先生から、レ大の特質の最たるものは、卒業後も長く友情を保ちあい、親睦の輪のゆるがないことであり、レ大の美風一つであると拝聴した。

私達二十期生、園芸科生におきましても、二年間にわたり、培ってきた友情を不変のものとするため「園芸二〇の会」を発足させ結集することにしました。東に本会設立の

目的を全うするため、会員の希望により同好会をつくり活動しながら、親睦を深めることとした。以下同好会について述べます。

一、「二〇ウォーキング」

入学当初、お互いに早く名前を覚えたい、仲良くしたい思いから、本会が生まれました。

月に一度、一回一〇軒程度、滋賀・京都の野山、名勝・旧跡を歩いています。参加者は平均して一回十名程度です。園芸の学問の進展に伴い、ハイキング中に、沿道の庭木や管理状況が気になるようになったほか、花木の名前を覚えたり、得るところは大きい。

しかし一番の楽しみは、車座に大地に腰をおろして食べる昼食でした。少量のアルコールは、胸襟を開かせ、雑談の花を咲かせます。そして大変に良い人間関係をつくってくれました。

この楽しいハイキングは、卒業後も継続して実施することにしてまいります。

二、花緑公園・ガーデナーズ

滋賀県立近江富士花緑公園は、三上山の東山麓に位置する、面積五四、六ヘクタールの県立公園です。

四季折々の花や、木の変化が楽しめ、身近な自然学習や

森林文化の体験等ができる「ふるさと森林公園」です。

私達は、身につけた知識と技能をこの公園で生かし、少しでも社会のお役に立ちたいと「花緑公園・ガーデナーズ」を結成しました。現在会員は十五名です

かねがね公園側でも、多くの人々の支援と協力を得た公園機能の充美をスローガンとしておられ、私達が最初の乗人となったわけです。

公園側は非常に好意的で、用具の準備等をしていただくほか、樹木の整枝剪定、刈込等は、具体的に、その都度指導されるので、知識・技能の向上がはかれる。

このように、私達の申出を真に受けとめて、指導等の手をさしのべていただく厚意に報いるために、会員が力を合わせて「県民の皆様に親しまれる公園づくり」に少しでも役立っていきたいと思います。

その他の同好会として、カラオケ・麻雀などが企画準備されており、参加はすべて自由です。

おわりに

「男の年寄りには、藪の垣にもならん」の例えもあるように、一般的に役立たずと思われがちです。

また、老いて友のないこと、居場所の確保に困ること等、老人の悩みも聞き、知りました。

私達は、その対策等として、多くの同好会をつくってもらいました。

これを、如何に活用されるかは会員一人一人の考えですが、願わくは積極的に参加して、会の発展とともに、光り、輝く人生を送りたいものです。

最後になりましたが、本会のご発展と、先輩の皆様のご健康をお祈りします。

“若さ” きらめく

草津校 湖南支部

陶芸学科 三上 善弘

白髪のオールバック。色白。顔の色ツヤよし。ヤヤたれ目。小指の爪が際だって長い。細身。着衣が信楽からにしてはオシャレ。清潔感あり。陶芸道具箱の中は手作り道具もあり意外と貧弱。

これが陶芸科二年、大西忠佐、陶の師初対面の姿。

回を重ねるにつけて分ってくる。

健康そのもの。素早い作陶、しかもうまい。陶芸だけでなく幅広い博識。字がうまい。絵もうまい。お色気ジョークがうまい。女性には特に優しい。考え方が若い若い。お見受けするに作陶が楽しくて楽しくて……。これが“若さ”をかもし出す源でありましょう。

『足は心臓、指は脳』。これだけ十指を刺激すると痴呆

も近寄れない。これからも恍惚とは無縁。
拙い川柳で陶の師評。

“恍惚は 陶の師指に カブトぬぎ”

ワザがスバラシイのは昭和天皇に天覧作陶を二十歳代、五十歳代の二度に渡り披露。

“天皇は 陶の師ワザを 二度タダ見”

(『天皇がタダ見』の表現は戦前なら不敬罪でございます。) 師のワザは五十年來、陶芸界の第一人者であり、いつまでも作品が若々しく、また気も若い何よりのアカシであります。

“土瓶裏 忠佐と書いて 十五万”

楽しみながら作ってこの価格。ウラヤマシイ。

作陶でボケも逃げ、名前を三秒で書いてガツポリと……。

これだけでも生甲斐の一つ。若さも近寄って来る。

陶の師は今夏ジャガーを購入。金額もさることながらの車で走ろうとする気持ちが良い、若い。

“ジャガーで 走る陶の師 今も春”

『今が春』は次に夏、秋、冬が来ます。『今も春』はいつまでも春。

“ジャガーにて 駆ける陶の師 若ジジイ”

運転姿はジジイでなく、頭髮が少々ハゲあがった青年。

“バイアグラ お世話にならず 月二十”

この様にお見受けします。若き満々。

陶の師からお叱りを受けそうです。『私は二十六』と。健康で若い。気持ちで若い。ユーモアで若い。オシャレで若い。……そしてボケなし。

高齢化時代で理想の姿。

感動を与えてくれた陶芸よりも、自然体で “若さ” の本質を目の当たりに見せてくれた陶の師に、より深い感銘を受けます。

年を重ねても『陶の師若さ』のどれか一つを是非とも、是非ともあやかりたい!!

心通じる仲間との出会い

草津校 中部支部

生活学科 齋藤吉太郎

早いものです。さて、どんな人たちとの出会いが……? と、少々緊張の思いでレイカディア大学草津校での入学式にのぞんでから、もう二年が過ぎ去りました。そして今また新しく、レイカディア大学同窓会の一員に加えていただき、さらに幅広い出会いが得られることに喜びを感じています。

私が属した草津校生活科学学科二十期生は、男性十二名、女性八名、合計二十名でした。さすが人生六十〜七十年、

変転著しい時代の荒波の中でキャリアを積んだ面々だけに、二味三味と奥深い味わいを醸し出す仲間たちです。

必修講座、選択講座と登校のつど、これもキャリア豊富な諸先生の講義からいただいたものもたくさんありましたが、私にとってレイカディア大学二年間の最大の収穫は、六十余歳にして新たに、胸襟を開いて語り合える十九人の友人が得られたということです。

生活科学学科では、ご存じのように調理実習、衣服、生活用品のリサイクル実習、染色実習等々、お互いに手を貸し合って体験学習があります。また全校の活動でも、展示会、学習発表会など、お互いが協力しあい、持ち味を出し合って成果につなげる活動の場がありました。

当初は一面識もない人々の集まりが、二年の月日を経てこんなにも素晴らしい友情を持ち合えるようになることに、これらの体験は大きく作用していると思います。また、別の一面を考えてみますと、共にレイカディア大学の門をくぐったこの仲間は、かつてのサラリーマン当時のような職場組織にも属さず、同一集落の住人的つながりもない、いわば利害関係のともなわれない人同士であり、よきも悪しきも人間の純粋性をかなり表に出してつき合った仲間であり、そこからよい人間関係が築けたともいえるでしょう。当然私たちは個々に思考、価値観が異なり、ものごとについての判断も異なります。ときには感情的な葛藤も生じ

ます。しかしことをわきまえて、利害を意識せず、ストレートに意見を交しながら熟成できた仲間は素晴らしく、その中に私も存在できたことを喜びとしています。

レイカディア大学二年間の集大成ともいえる「紀要集」に、私は前掲のことをとらえて、「仲間づくりと生きがい」の拙文を編入していただきました。

わが仲間たちは、これからそれぞれのスタンスで、大学の学びを生かして活躍されるでしょう。およばずながら私も、地域自治会の活性化や、高齢社会の中で人々の健康・生きがいづくりに役立つような活動をすすめていきたいと考えています。そして折々、レイカディア大学同窓の仲間と美酒を味える機会がもてることを楽しみにしています。

レイカディア大学を卒えて

草津校 守山・野洲支部

文芸学科 園 昭男

光陰矢の如し、の喩えを二年間のレイカディア大学卒業を前に、身に沁みて実感している。緑に囲まれた素晴らしい環境のなかの近代的な学舎で学ぶことのできた二年間は古希を迎えた私のこれからの人生のなかで最も充実した期間となるに違いないと思う。

必修講座では政治経済文化から身近な環境や健康問題まで幅広い領域に亘り、それぞれの専門の先生から講義を聞くことができた。設備の整った大教室で多くの学友と共に新しい知識を吸収できる喜びは、家で新聞・雑誌を読んでいるだけでは到底味わうことはできない。特に高齢者にかかわる話には、今後を生きるための指針を与えられた。

われわれ文芸学科の選択講座は、三原博先生の書道と、山村金三郎先生の短歌だった。書道は毛筆を持ったのは五十年ぶりで小中学校時代の昔にかえたような気分になったものだ。二年間の先生の指導をうけて現代の書道に対する考え方が昔とは大きく違ってきていることを知った。

今までの習字は手本に忠実に、いわば模倣の技術に終始していたこと、現代は書いた人の個性、人柄等がその作品にいかにも表現されているかどうかが、“書”のよしあしを区別する決め手となること等を二年間の学習を通じて学び、書道の奥の深さと現代の“書”をみる眼をすこしは養うことができたと思う。短歌に至っては全く初めての経験ではたして皆と一緒に学習についていけるか不安だったが、先生の懇切なご指導をうけて卒業を前にして、やっと短歌の観賞のあり方、作歌技法のほんの入口に到達できたように思う。古歌や有名な明治以降の歌人の歌の鑑賞や実作指導を年数回の吟行会を通じて“物の見方”を教わった。これからも短歌に親しみ、心豊かに過ごすため生かし

ていきたい。

レイカディア大学で学んだこれからの講座にもまして大きな収穫は、バラエティ溢れる多くの学友との出会いである。

岡山方面への修学旅行、夏の学習発表会の催し等に参加して事務局の皆さんや他学科の学友とも交流を深めることができ楽しい思い出となった。文芸学科二十期生では卒業後同級会を各地域ごとに持ち回りで開催して交流を続けていくことを決めた。いつまでもこの出会いを大切にしてお超高齢化社会を生きていきたい。

卒業後は歴史に輝くレイカディア大学同窓会の仲間として諸先輩と共にいささかでも地域社会に貢献したいと思う。

最後に卒業を前に無念きわまりない無常のできごとを記さなければならない。卒業式をあと十日後に控えた最終の短歌の講義日の前日、あまりにも悲しい学友吉川哲治さんの訃報を聞かされた。癌と斗かいながら不屈の気力で登校し、机を並べて勉強していたつい二ヶ月前までの崇高なまでの吉川さんの姿が今も眼に焼きついている。心からご冥福を祈りながら筆を擱く。



大学二年間の

学生生活の想い出

草津校 湖南支部

スポレク学科 原 邦夫

人生八十年時代を迎えて、健やかで活力ある長寿社会の実現が望まれています。

私は、スポーツが大好きなことからスポーツ・レクリエーション学科二十期生として入学以来、春夏秋冬四季折々の時季に適したスポーツ・レクリエーションを教わって参りました。特に期待していた体育祭と文化祭の二大行事が昨年から中止されましたので、私達スポ・レク学科生は米原校と合同運動会を行なって有意義な良き交流の場を与えていただきました。また、文化祭に代わる行事として七月に草津校での学習発表会が開かれ、私達は与えられた時間いっぱい二十分間をスポ・レク学科生全員の参加によって「茶摘み」の歌と、「スペース・クラフト」"O"と名付けた簡単な折紙で、各家庭や地域でお孫さんに教えていただけるとの会場の皆さんの協力をいただいで発表することができました。

必修講座では、核外学習として京都の大本山妙心寺に詣で、座禅を組んで“心に静けさを生活に潤いを”の講義を聞き、多くの文化財や立派な家庭等を鑑賞することができ

ました。また、薬草園の見学に岐阜薬科大学薬草園等を尋ねて薬の勉強をしました。我が国歌舞伎界発祥の京都南座における歌舞伎鑑賞教室も得難い体験でした。

公開講座は年間二回行われて、著名な講師の先生から結構なお話を聞くことができました。この生涯学習の中で特に記憶に残る行事としては、島根県「国立三瓶青年の家」と、長野県「国立高遠少年自然の家」での野外研修に参加した事があります。この二泊三日の野外研修では、今日の物質的な事ばかりにとらわれずに心の豊かな生活を再創造する観点から、人間も自然の中の一員であり、その自然界のサイクルの中で共生している事を基本にして実施された米原校との合同研修会でありました。台風七号にみまわれながらも予定通りの行動ができて、草津校、米原校の別なく連帯意識と友情を深められた収穫の大きな行事でありました。

また、本年二月沖繩の長寿学園の未県による大雪で迎えた交流会や、三月の修学旅行も私達の生涯に残る想い出となります。そして六月には石川県長寿大学マスターコース二十五名を迎えての交流会も有意義な行事でした。

このようにすばらしい学習内容のもとに楽しく学習できた私達は本当に幸福でした。

私達も卒業後は同窓会の一員として、全国でも誇れる輝かしい歴史と伝統をもった栄光ある本同窓会が益々進展

いたしますよう滋賀県レイカディア大学同窓会憲章を推進すると共に、会員相互の親睦融和をはかってこれが前進いたしますことをここに誓うものであります。

園芸学科に学んで

米原校 湖東支部

園芸学科 田中 昭一

社会を定年退職して閑暇であろうと思われて、親戚や知人から樹木の剪定依頼や、植生についていろいろの質問を寄せられたが、満足に答えられない悔しさを一つの糧として、レイカディア大学園芸学科入学を希望、二十期生として許可され平成九年十月より大学生として勉強する事となりました。園芸学科の中村利温先生はじめ諸分野の先生方の御指導を受け学生生活を愉しんでいましたが早や卒業、「光陰に閑守なし」の喩え通り「あっ」と言う間の二年間でした。

中村先生には植生の創成、そしてその存在する事の重要性から樹木、野菜、盆栽、庭園、草花等々とそれ等に関連した諸事柄を含めて広く刈り易く教え頂きました。

樹木の剪定、正月用石台の作成、石積み等の実習では机上の勉強と違い、身体を使い、臨機応変に形造りが要求され仲々思い通りに行かず、皆んなで研鑽しあって真剣に取

り組みました。

この実習での体験をもとに、昨年親戚の庭樹の七種十一本の剪定を引き受けたが仲々要領がつかめず、椅子の使用方法や、手順の間違い等で新芽を欠いたり、小枝を折ったりと散々の出来でした。学友達も同じ様なことを経験しているとの話でした。

その後の実習と昨年の反省を生かすべく本年も剪定に再度挑戦、結構スムーズに実施する事が出来ました。しかし、将来の樹形を考慮した整枝には至らず、まだまだ精進の必要を痛感しました。

今年八月の剪定実習では、皆んな昨年時と違って率先し、愉しそうに、思いきった枝切りをする等見違えるばかりの上達振りでした。

剪定に限らず実際に身体で修得する事が必要なことを改めて認識した次第です。

これからの人生に於いても、やってみる事の勇氣と前向き姿勢で周囲を見、何事にもチャレンジして行きたいと思っています。野菜造りや盆栽等教えて頂いた事を生かして、一つ一つの作業に考察を加え乍ら取り組み、状況を同好者と報告しあい、技術を競い、愉しく元気に過ごして行きたいと念じております。二年前レイカディア大学の初めでの出会いから共に学び駄弁り、飲み、唄い、踊り、議論しあい親愛の仲間となった同期二十五名の方々と、卒業

後も尚一層の親交の継続を願って年二回の会合と、一〇二回の剪定ボランティアを約束しています。又出会いの室として五名の委員に依る創作写真集の発行を愉しみにしております。

十月より同窓会の仲間入りをさせて頂く事となりますが、横の出会いに加えて縦の良き出会いが生まれ、お知恵が拝借できる事を期待して居ります。よろしくお願い致します。

生活科学科に学んだ思い出

―二十一世紀への期待―

米原校 湖北支部

生活科学科 西脇 義雄

レイカディア大学は、期待と希望に胸躍らせ待ち焦がれ憧れた日々でした。取り分け私には大きな挑戦であり、自己再生の道、生き甲斐の灯でした。それは六年前に脳出血で倒れてから、再起をかけたリハビリの努力の結果と多くの人達の愛と、支えによって今日を迎えることが出来ましたが、更に地域を代表する人に伍して、社会生活の中に加わって現状を学び、リーダーとなる資質を高める教育を受ける使命感に身震いする緊張に浸り、学業に精励した二年間でした。

この大学に学べたことが、自らの自信に継がり、今後の生き方の指針となると考え、未知の分野にも進んで取り組み意欲を燃やして挑戦して来ました。生活科学科とはどのようなことを学ぶ所なのか、その名称からして女性の選択する学科、先輩の人員構成や授業内容からも、女性中心の科目の色合が強かったようです。日本人は特に生活に密着した家事は女性に任せ、男性の領域ではないとする風潮が通っていました。近年定年後の男性をぬれ落葉とか、粗大ごみと呼ばれます。そうならない為にも料理、裁縫やリサイクル再生の工夫と、自立の道を考え、せめて自分のことは自分でする。生活科学科で学ぶ要求は強まります。二十一世紀の老人にとって最も学ばねばならない道だと思えます。時代を先取りし先駆者として、生活科学に学び実習や体験出来たことを誇りに思います。世の男性諸君、来たれ生活科学科へ

―長寿社会において直面する必須課題は何か―

- 一、生活習慣病対策と食生活の改善、運動の実施。
- 一、高齢者社会の有用な生き方、生涯学習次世代への継承。
- 一、ボランティア活動への自発的な取組みと参加。
- 一、介護保険制度の問題、周知理解と公正な運用。
- 一、環境問題への対応、現状理解、身近な所から見直す。

等々山積みしています。私達の学んだことは時代の要求に添った学問だと今さら感じます二十一世紀突入を前に、時代にふさわしい最も必要とされる分野であることを認識し、生活科学科の発展継承を願うものです。

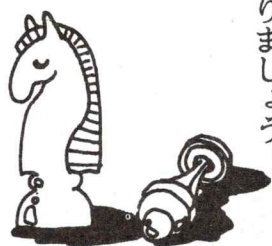
ーレイカディア大学に学んだ思い出ー

◎文化祭作品展示・研究発表・紀要 等に示された一体観

◎料理実習の時 互いの協力に示された連帯感

◎修学旅行・クラス親睦旅行は生涯の思い出として、心を開き懇談出来ました。老いを感じない新鮮な時でした。

人の和とコミュニケーションの大切さを知りました。選ばれた人の間でも互いに個性が違い、自己主張も異なる中でお互いを尊重し合う謙虚さの必要なことを認識しました。人は歳を重ねても完璧には程遠いのです。自己主張にこだわらず、柔軟に死ぬ迄学び続け、社会に何かを残す気持ちは失わずに参画して、レイ大で学んだ誇りをもって生涯を生き抜き、意義ある日々を送りましょう。



走馬灯

米原校 中部支部

文芸学科 薄田 善次

平成九年十月レイカディア大学第二十期生 文芸学科 十期生文芸科に入学して、早や二年の歳月は過ぎてしまいました。「光陰矢の如く」、振り返る間もなく過ぎし二年間でした。其の間の思い出と言って、今筆先に纏め様とする私の脳裏には、走馬灯の如く次から次へと浮び、筆舌に表し難い思いです。心穏やかに同僚の笑顔を次々に思い浮かべ一人一人に語る思いでペンを走らせる。

私は昭和初期の生まれで大した学歴もなく、社会情勢にも明るくない私は、本当に劣等感と言うか、世間を知らない無知な自分に気付きました。同僚の皆さんと肩を並べての学習に、追て行けるかと不安を覚えると共に、入学したからには自分なりに一生懸命に努力したいと心に決めました。

学校卒業以来書道や短歌など全く無縁のものと思いきや、不安が増すばかりでした。クラスの仲間が遅れを取らないためにも人の二倍の努力、練習をしないと駄目だと決めて頑張ることにしました。

必修講座に於いては各講義とも専門の講師により、一般大学での講義とも思われる程の内容も豊かで分かり易く、

勉強をさせて戴き、高齢社会に於ける我々の生き方、もの
の考え方など・色々と我が身を振り返り、又これから先の
道しるべともなるものを学び、生涯の誇り、宝として地域
づくりのために役立ちたいと思っております。

特に講義の中で今も印象深く残っているのはクローン
と言う言葉と内容です。今日ではすでに汚用され動物の牛、
豚、其の他にも細胞の結合により、詳しくは分からないが
同じ物体のものが幾つも出来る。「生まれる」とは不思議
としか思えない位です。

又或る講師は、誰にも身近な「幸せ」は出会いにあると
言われた一言は今も感動を覚えます。

短歌に至っては、自分なりの短歌集二冊を纏め二百七十
首の短歌をクラスの仲間や、地域の人にも見て戴き、一人
でも多くの人と交わり、生きる楽しさの輪を大きく広げた
位と思っています。

習字については、なかなか難しく人様に見て戴ける様な
ものは書けませんでした。自分なりに精一ぱい、力・魂を
込めた力作に満足感を覚え、今後も続けたいと思ってお
ります。

楽しい思い出と言えば矢張り修学旅行でした。一泊二日
の短かい旅行ですが、和気あいあいの中に色々と学び学友
との仲も一層深まり、学習をするにも励みとなりました。
此のように色々と余生を余すものとせず生きる限りは、

希望に燃え楽しい毎日を過ごしたいものです。同僚の皆さ
んは勿論のこと、色々と教え戴きました先生や、お世話戴
きました事務局の皆さんには感謝致し厚く御礼申し上
げます。本当にありがとうございます。

出会いこそ 誰にも出来る 幸せと

講師は 諦めて 話し終れり

走馬灯の 如くにめぐる 思い出は

たのしい学習 わが仲間たち

真実からの喜び

米原校 湖北支部

スポレク学科 橋本 高明

平成九年十月八日、第二十期生として入学許可書を頂き
ました。あの日の快晴、式場の厳肅さは今も脳裏深く刻ま
れ忘れる事のない人生の一頁となりました。その入学許可
書は大切に保存させて頂きます。

さて、私達のスポレク学科……一口に言うとき気統合
と表現出来ると自負しておりますが、兄弟姉妹が増えたと
云う思いを持たた事が今も幸せに思っております。

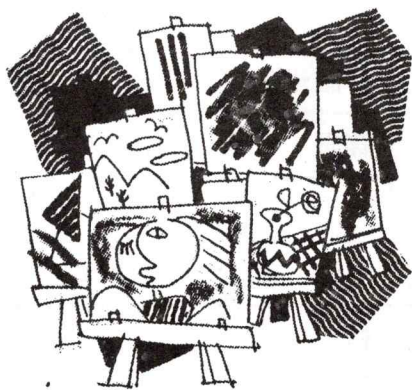
スポレク学科の中心的な御指導は滋賀大名誉教授の有
名な草川一校先生でした。私と同じお年とお聞きしました
が、前にお立ちになられたその御姿勢に、きりつとされる

その中に人間味と云うのでしうか、暖かさ若さを見出し、さすがやなあとも思い、私もこれからの人生、添われる人間像作りに精進したいと学びました。先生の中心的教義は若しスポーツの仲間、に身体の不自由な方がおられた場合には、その人の心に入ってリードする事、若者のスポーツと違って勝ち負けではない事、その人に「生き生き人生にプラス」する為の明るさ、希望を主眼点に今後のリリダシップをお教え下さいました。そしてスポーツ学科二十期生として良き思い出を作って下さいました。草津校の皆さんと一緒に参加した島根野外研修でした。国立三瓶青年の家での合宿と松江城周辺の班毎のウォークラリーでした。両校の仲間作りと和の体験学習でした。そして紙面をお借りして御礼申し上げたい事は先生の助手としてボランティアの皆さんがたの暖かい御世話を頂いた事です。町の課長さんがフォークダンスの指導を願っておられる様子なので、先輩、同志を相計り実現に結び度いと思っています。

それから在所に居たら、とてもとて学べない多方面の事柄を必要講座で学ばせて頂きました。高齢時代と云っておりますが、今の私達はこの時代の先導者としてこれからの十年、二十年をレイカディア大学の精神を旨に、前進しようではありませんか。先生方もおっしゃいました。自分の新たな発見、その創造と自己の輝かす人生への努力が、

その人の人生が、ああ良かったと云えるのではないかと。一隅を照すと在りますが、自己のみの幸せではなくて他者を愛す、思いやる心、こんな学びを頂けたと思っております。

最後になりましたが、私にとりまして強烈な思い出を頂きました。それは湖の持つ緑で、滋賀県と中国湖南省と友好締結十五周年と云う事で、幸いな事にレイカディア大学の二十周年記念の行事としてその訪中の仲間入りに参加頂けた事であり、その一員として出席出来ました。六十二年前、戦死されし父の他に一度はとの念願を叶えて下さいました。恩警を越えての友好親善は二十一世紀の大きな大切な事であり、私達年代が次の世代へ送る大きな責務と致します。



滋賀県レイカディア大学同窓会会則

第一条 (名称)

本会は、滋賀県レイカディア大学同窓会と称する。

第二条 (会 員)

この会は、滋賀県老人大学校およびレイカディア大学の卒業生をもって組織する。

第三条 (事務所)

この会の事務所は、滋賀県レイカディア大学本部内に置く。

第四条 (目的)

この会は、会員相互が切磋琢磨し併せて親睦を図り母校の発展に寄与することを目的とする。

第五条 (事業)

本会は、前条の目的を達成するために、左記の事業を行う。

- 一、定期総会および臨時総会の開催
- 二、母校の活動に対する援助協力
- 三、調査、研究に関する事項
- 四、成果展および公開講座に関する事項
- 五、会報の発刊に関する事項
- 六、功労者の表彰
- 七、慶弔の実施
- 八、その他必要と認めた事業

第六条 (部の設置および分掌事項)

前条の事業を行うため、次の部を設け所掌事項を定める。

一、総務部

(1) 定期総会および臨時総会に関すること。

(2) 功労者の表彰の具申、慶弔の実施

(3) その他、他の部に属しない事項

二、研修部

(1) 研修事業の策定および実施

(2) 成果展および公開講座に関すること。

三、広報部

会報等の編集、発刊に関すること。

四、調査部

会員の資格調査に関すること。

第七条 (支部とその区域)

一、この会に次の通り支部を設け、その区域は次の通り定める。

支部名	区 域
大津支部	大津市全域・滋賀郡全域
湖南支部	草津市・栗太郡各全域
守山・野洲支部	守山市・野洲郡各全域
甲賀支部	甲賀郡全域
近江八幡支部	近江八幡市全域
中部支部	蒲生郡・八日市市・神崎郡各全域
湖東支部	彦根市・愛知郡・犬上郡各全域
湖北支部	長浜市・坂田郡・東浅井郡・伊香郡各全域
高島支部	高島郡全域

第八条 (役員規定を自主的に定める)

一、この会は次の役員をもって構成する。

一、この会は次の役員をもって構成する。

- (1) 会長 一名 (2) 副会長 一名
 - (3) 理事 各支部より三名(但し大津支部は四名)
 - (4) 常任理事 理事のうち各支部長とする。
 - (5) 事務局長 一名 (6) 会計 一名
 - (7) 幹事 若干名 (8) 監事 二名
- 二、役員を選出は次による。

- (1) 会長および副会長、監事は会員より理事会において選出し総会の承認を得るものとする。
- (2) 常任理事および理事は各支部から選出する。
- (3) 事務局長および会計は会員より常任理事会において選出する。

(4) 幹事は振興財団の役員ならびに大学事務局長の就任を依頼する。

三、役員の仕事は次による。

- (1) 会長はこの会を代表する。
 - (2) 副会長は会長を補佐し、会長事故ある時はこれを代行する。
 - (3) 各理事はこの会の必要事項の運営に当たる。
 - (4) 事務局長はこの会の庶務事項を処理する。
 - (5) 会計はこの会の会計事務の処理に当たる。
 - (6) 幹事は適宜理事会に出席を要請して本会の運営事項の助言を受けるものとする。
 - (7) 監事は会務、会計処理を監査する。
- 四、役員の仕事は二年とする。但し再任を妨げない。
補欠により選任された者の任期は、前任者の残存期間とする。

第九条 (総会および臨時総会)

- 一、定期総会は年一回会長が召集する。臨時総会は必要に依り、役員会の議を得て会長が召集する。
- 二、定期総会および臨時総会の議長は、出席会員の中より選出する。
- 三、議事は、出席会員の過半数によって決定する。但し、可否同数の場合は議長の決するところによる。

第十条 (総会に付議事項)

定期総会に付議する事項は次の通りとする。

- 一、会則の制定、改廃
- 二、前年度事業報告と決算報告
- 三、本年度の事業計画および予算案
- 四、その他役員会において必要と認められた事項

第十一条 (役員会)

役員会は会長が必要と認められた時、適宜これを開催する。

- 二、理事会は、総会に付議する事項のほか、この会の重要事項を審議する。
- 三、常任理事会は、その都度本会の運営に関する必要事項について審議する。

第十二条 (顧問および評議員)

- 顧問は本会役員経験者(長老)として会長が就任を依頼する。
- 二、評議員は大学当局より在校生各校二名の選出を受け就任を依頼する。
 - 三、必要事項ある時は、その都度役員会に出席を要請し、助言を受けることが出来る。

第十三条 (経 費)

この会の経費は、次の年会費および寄付金その他の収入をもつて賄う。

一、年会費は、一千円とする。

但し、既に終身会費一万円を納入した者を除く。

二、寄付金およびその他の収入

第十四条 (会計年度と決算)

この会の会計年度は、毎年四月一日に始まり翌年三月三十一日に終わる。

二、年度終了後、収支を明らかにした決算を作成し、監事の監査を受け総会に報告しなければならない。

第十五条 (慶 弔)

次により慶弔を行う。

一、会員が数えて米寿および白寿を迎えた時、予算の範囲内で記念品を贈呈する。

二、会員死亡した時、弔意を表する。

第十六条 (表 彰)

会員の表彰は、別に定める規程に基づき行うものとする。

付 則

一、この会則は、平成七年四月一日から適用する。

二、この会則は、平成八年四月一日より一部改定

(第七条〔支部とその区域〕新設) 施行する。

三、この会則は、平成八年五月一日より一部改定施行する。

四、この会則は、平成十年六月十一日より一部改定施行する。

五、この会則は平成十一年六月九日より一部改定

(第六条(部の設置および分掌事項)の一部削除ならびに新設、第十六条(表彰)の新設) 施行する。

滋賀県レイカディア大学同窓会表彰規程

第一条 (趣 旨)

この表彰は、滋賀県レイカディア大学同窓会の発展向上に尽力し、その功績が顕著な者に対して行う者である。

第二条 (被表彰者の基準)

被表彰者は、次の項の何れかに該当し、引き続き会員として活躍が期待されるものとする。

一、地域社会において活動し、その功績が母校ならびに同窓会の名誉に大きく寄与した者。

二、同窓会活動に積極的に参加し、その功績が特に顕著であつて他の模範となる者。

第三条 (被表彰者の選定方法)

一、被表彰者の選定は、各支部長の推薦により同窓会が決定する。

二、推薦にあたっては、別紙様式により申請するものとする。

第四条 (表 彰)

表彰は、年次総会において行い、表彰状ならびに記念品を贈呈する。

付 則

この規程は、平成十一年六月九日から施行する。



編集後記

会報第十七号は、本部と支部の行事と事業活動と随筆を中心とした内容で編集致しました。

本部関係では、本年度の定期総会は、アトラクションとして会員皆様の演芸を披露、初めて開催の県支部対抗グランドゴルフ大会の様子を、そして芸術の秋にふさわしい成果展の模様を夫々に報告致しました。

支部便りでは事業活動を中心とし、随筆では題名「フリー」で、幅広く格調の高い見識ある有意義な投稿を戴きました。

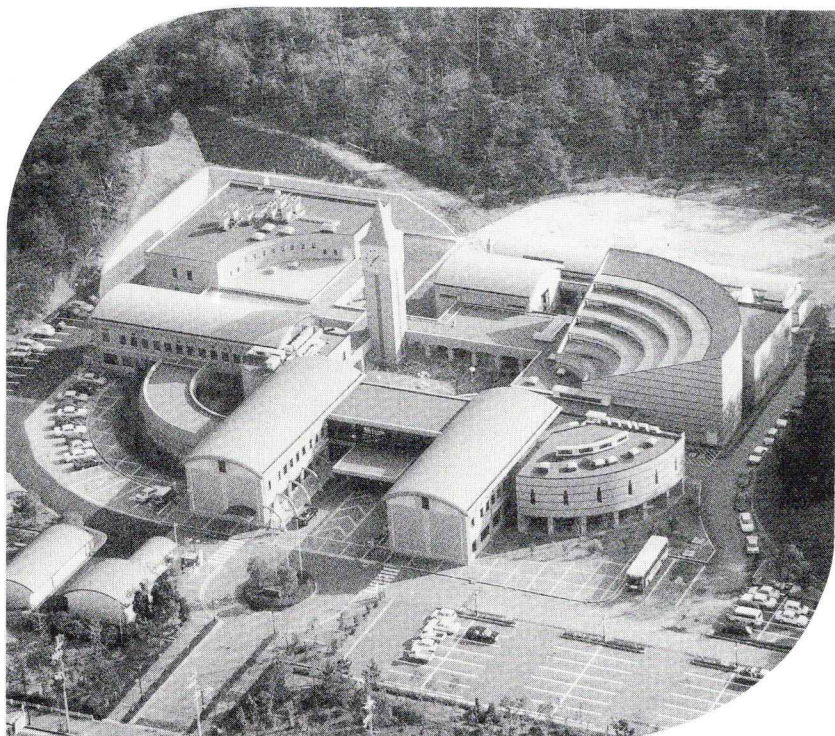
昨年度発刊の会報第十六号は開校二十周年の記念号で、ある会員より二十年の歴史なり、エピソードの紙面を感激したり懐かしんだり交々に拝見しているとの便りがありました。又、事業活動を中心とした支部便りによって、本年度の卒業生の方々の同窓会入会率のアップに少しでも貢献して頂け之れ幸いと思っております。

今後共当会報が広く深く愛読され、同窓会の活性化ひいては発展につながれば幸甚です。

最後になりましたが、学校長を始め関係各位には御多用の処、御投稿賜り厚く御礼申し上げます。

なお、支部長、広報部諸氏の御協力に感謝申し上げます。
(広報部長 岩井 典弘)

滋賀県立 長寿社会福祉センター (レイカディアセンター)



滋賀県レイカディア大学同窓会

会報 17号

発行 平成 11 年 11 月
編集 滋賀県レイカディア大学同窓会
同窓会事務局
〒525-0072
草津市笠山7丁目8-138
(滋賀県レイカディア大学本部)
印刷 アートルームエダカ
近江八幡市馬淵町1641-16

※ 本部の住所が上記の通り変更になりました

